

かんきょう四季

－ 創立40周年記念 特別号 －



「津久井湖畔」

撮影者：三菱重工業(株) 相模原製作所 織田さん

相模原の環境をよくする会

会長あいさつ

相模原の環境をよくする会

会長 竹内 昌夫

(三菱重工業株式会社 相模原製作所)



昭和60年、「相模原の河川をきれいにする会」と「相模原の青空を守る会」が統合され、『相模原の環境をよくする会』が誕生いたしました。以来40年、地域の自然と人をつなぐ活動を地道に、そして着実に積み重ねてこられた皆さまのご尽力に、心より敬意を表します。

この40年で「環境をよくする」という言葉の意味は大きく変わりました。かつては公害の未然防止や、身近な自然の保全が主な関心事でしたが、今では地球温暖化への対応、生物多様性の保全、資源循環型社会の構築など、より広範で複雑な課題への対応が求められる時代となっています。

相模原市でも、リニア中央新幹線の開通や都市再開発が進み、環境と都市の調和が重要なテーマとなっています。また、近年の猛暑や豪雨、災害の頻発は、私たち一人ひとりの環境意識の向上と行動の変革を促しています。こうした変化の中で、環境保全は専門家だけでなく、地域の皆さま一人ひとりの参加と協力が不可欠なものとなりました。

そのような中でも、ホタルの光を守る活動や河川の生物調査、子ども達との環境教室など、地域に根ざした取り組みを続けてこられたことは、私たちの誇りです。これらの活動は、未来へのバトンであり、環境を守ることは命をつなぐことだと実感しています。自然とふれあい、学び、守るという営みは、世代を超えて地域の絆を育む力にもなっています。

本会は、こうした時代の要請に柔軟に対応し、行政・企業・市民の連携を促進する“地域のプラットフォーム”としての役割を果たしてまいりました。40周年という節目は、過去を振り返るだけでなく、未来への決意を新たにする時でもあります。これまでの歩みを礎に、次の世代が誇りを持ってこのバトンを受け取れるよう、私たちはこれからも歩み続けます。地域の皆さまとともに、よりよい環境づくりに向けて、力を合わせてまいりましょう。

目 次

会長あいさつ	1
会 長 竹 内 昌 夫 (三菱重工業株式会社相模原製作所)	
祝 辞.....	3
相模原市長 本 村 賢太郎 相模原市議会議長 大 槻 和 弘	
40周年記念 特別寄稿.....	7
感謝!相模原の環境をよくする会への思い 東京電力パワーグリッド株式会社 竹 内 信 義 企業と地域の協力で創る未来:「相模原の環境をよくする会」40周年 株式会社ニコン 山 田 秀 信 コロナ禍明けの会長就任(環境に対する意識の変化) 日本山村硝子株式会社 東京工場 浅 見 佳 寿 相模原の環境をよくする会の思い出 (前)三菱電機株式会社 渡 部 一 浩 「相模原の環境をよくする会」の思い出 (前)(一財)生物科学安全研究所 中 村 晃	
40年のあゆみ	15
40年の軌跡(年表) 設立の経緯 全体活動のあゆみ 広報活動のあゆみ 事業活動のあゆみ 調査活動のあゆみ	
創立40周年記念特集.....	61
会員の環境保全意識や取組の変化について	
会員一覧.....	69
相模原の環境をよくする会会則・細則	75

祝 辞

創立40周年を祝して

相模原市長 本 村 賢太郎



相模原の環境をよくする会が、この度創立40周年の節目を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、これまでの歩みをまとめた記念誌を刊行され、会員が一丸となることは、誠に意義深いこととお慶び申し上げます。

貴会は、昭和60年の創立以来、長きにわたり市内の河川の水質状況を調査する「河川生物相調査」や市民まつりにおける「かんきょうフェア」の開催をはじめ、市民の皆様が自然と触れ合う機会を提供する「自然観察ウォッチング」の実施など、多様な活動に取り組み、着実に成果を挙げてこられました。中でも、中道志川トラスト協会と連携し、青野原オートキャンプ場で開催されている「夏休み環境教室」は、津久井地域の雄大な自然に触れ合う貴重な体験として、多くの市民に親しまれるイベントとなっております。

本市の自然と向き合い、環境について考える機会を御提供いただいておりますことに心から感謝申し上げますとともに、歴代会長をはじめ会員の皆様の熱意と御尽力に、深く敬意を表します。

40年のたゆまぬ活動の中、本年は、時代の変遷に応じて会の目的を改定し、気候変動や生物多様性など地球規模の問題への取り組みを強化するなど、より一層活動の場を広げられております。水源を育み、恵み豊かな自然を次世代へと継承していくためには、今実施すべきことに着実に取り組むことが大切であり、貴会の今後のさらなる御活躍に期待申し上げます。

本市といたしましても、「第3次相模原市環境基本計画」に掲げております「人と自然が共生するまち～市民と築く、地域循環共生都市さがみはら～」の実現に向け、皆様方のお力添えのもと、地球温暖化対策や水とみどり・生物多様性の保全・活用などに取り組んでまいり所存です。

結びとなりますが、「相模原の環境をよくする会」のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

創立40周年を祝して

相模原市議会議長 大槻和弘



相模原の環境をよくする会が創立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴会は、昭和43年設立の「河川をきれいにする協議会」と、昭和53年設立の「相模原の青空を守る会」が、より広範な環境問題に取り組むため、昭和60年に合併して創立され、長きにわたり活動を続けてこられたその間の40年の歩みは、相模原の美しい自然を守り、豊かな環境を次世代に引き継ぐという強い思いによって支えられてきたものであり、歴代会長をはじめ、会員各位の御努力と熱意に深く敬意を表します。

現在、私たちは、地球温暖化や生物多様性の減少など環境問題の深刻化に直面しており、国境を越え早急に、かつ将来にわたって、その対策に取り組む必要があります。これらの問題は、私たち一人ひとりの生活に深くかかわっており、決して他人事ではありません。

こうした中、貴会は、本年会則を変更され、気候変動などの地球的危機の克服や、持続可能な社会の形成に向けた取組を推進することを掲げるなど、一段と広い視野に立った活動へと、その活躍の場を広げ取り組まれています。

これまでも、かんきょうフェアや夏休み環境教室の実施、会報「かんきょう四季」の発行など、市民一人ひとりが環境問題に関心を持ち、行動を起こすきっかけを数多く生み出されています。

また、創立当初から継続している「河川生物相調査」の実施結果にも示されているように、長年にわたり積み上げてこられた環境保全活動は、相模原の美しい景観や豊かな生態系を守るなど、着実に効果を上げており、改めて心より感謝申し上げます。

本市は、都市の利便性と豊かな自然が共生する都市を目指し、各種の施策を推進しております。市議会といたしましても、こうした施策が今後も推進されるよう支援してまいります。貴会におかれましては、相模原の環境保全活動の先駆者として、これからも変わらぬお力添えを頂きますよう、お願い申し上げます。

結びに、記念すべき40周年を契機とし、貴会の今後ますますの御発展と、会員の皆様の御多幸と御健勝を心より祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

40周年記念
特別寄稿

感謝！相模原の環境をよくする会への思い

東京電力パワーグリッド株式会社 竹内信義



相模原の環境をよくする会、40周年おめでとうございます。

私は平成30年～令和5年の間の5年間、役員として活動させていただきましたが、よくする会の活動は、楽しい思い出として今も心に蘇って参ります。

私が役員になって初めての活動は、青野原で行われました「夏休み環境教室」でした。前任からはマスをさばいたり、木で工作したり皆さんのお世話をしたりするのが役員の仕事であると聞かされており、どんなことをやるのか、不安と緊張で集合場所に向かいましたが、先輩役員の

皆様や事務局の職員の皆様が温かく迎え入れてくださったおかげで、すぐに打ち解けてお仲間に入れて頂けたことを昨日のように覚えております。子ども達がマスのつかみ取り、木の工作をしながら、相模川の環境について肌で学ぶこの取り組みは、他に例を見ない素晴らしい活動だと思います。

在任中にコロナ禍という世界的な脅威があり、対面での活動を休止する期間もありましたが、後に復活した際に、この活動の大切さ、素晴らしさをあらためて実感させていただきました。その他、かんきょうフェア、河川生物相調査やバードウォッチング、各種視察行事等多くの活動がありました。どれも自分にとって良い思い出であり、有意義な活動であったと心から思っております。そしてこれらの活動を通して、役員のみなさまや職員のみなさま、そしてたくさんの市民のみなさまと係わることにより、自分自身もこの会に育てられ、成長させて頂けたと強く感じております。本当に幸せな時間を過ごすことが出来ました、この「相模原の環境をよくする会」にあらためて感謝させていただくとともに40周年を節目に、益々発展されることをお祈り申し上げます。

企業と地域の協力で創る未来：「相模原の環境をよくする会」40周年

株式会社ニコン 山田 秀 信



「相模原の環境をよくする会」40周年おめでとうございます。

弊社はよくする会の初期から、その趣旨に賛同し、役員企業の一員として、歴代担当者間で引き継ぎを行いながら活動を続けてまいりました。

よくする会が発足した1980年代は、産業の急成長に伴う「公害問題」はピークを越えつつも、その影響がなお残る状況でした。そのため、水質・大気・土壌汚染の軽減を目的とした企業間の情報共有や、公害防止の啓蒙活動が主な取り組みだったと伺っています。

一方、昨今では時代が大きく変化し、各企業が公害防止に努めるのは当然の責務となり、それ以上の、地球規模での環境改善への貢献が求められるようになっていきます。また、企業の環境改善活動が、企業自体の評価指標の一つとして定着し、環境分野での情報開示を評価する「CDP」や株式市場の指標を提供する「ダウ・ジョーンズ」などを通じて、環境への取り組みが企業価値に直結するようになりました。

一方、一部の企業では地域貢献活動を単なるボランティアと捉え、企業活動として積極的に取り組みにくいケースがあるのも事実です。その点、「相模原の環境をよくする会」では、企業が地域貢献をアピールできる場の提供により、企業内での理解を得やすい環境を作っていただいていると感じています。さらに、このような「Win-Win」の関係性が、この会を持続可能なものとしているポイントだと考えます。

私自身は2016年に環境関連の職場に異動したことをきっかけに、この会に関わるようになりました。以来、相模原市民の皆様への環境意識啓発をお手伝いすることに加えて、弊社の本業である光学機器メーカーとしての特性を活かし、双眼鏡を用いた野鳥観察会や、顕微鏡を用いたかんきょうフェアでの自然観察ブースの出展などを通じて、社内外の協力を得ながら活動を進めてきました。これらの取り組みを通じて、環境活動の場が企業アピールの場としても活用できることを実感しております。

一時期は、コロナ禍による自粛期間中に会員企業や市役所の担当者変更が相次ぎ、イベント運営経験者が減少したため、運営面で若干の課題を感じることもありました。しかし、イベント再開後2年が経過した現在では安定感を取り戻し、会員からは改善に向けた意見も多数出てくるようになりました。また、事務局である市役所の方々には、これらの意見を取り入れ、改善に向けた体制をさらに強化していただいていると感じています。

40周年という節目を迎える本年ですが、今後も「市民」「自治体」「企業」それぞれに有用な活動を企画・実施し、「相模原の環境をよくする会」がますます発展されることを心より期待しております。

コロナ禍明けの会長就任（環境に対する意識の変化）

日本山村硝子株式会社 東京工場 浅見 佳 寿



相模原の環境をよくする会40周年おめでとうございます。

わたしが相模原の環境をよくする会に初めて参加させていただいたのは、2014年1月からでした。前任者から引き継ぎ勤めましたが、2015年4月に県外へ転勤となり、会から外れることになりました。その後、2018年1月に再び相模原に戻り、環境をよくする会の理事として参加させていただくことになりました。

当初は、環境に対する意識はそれほど高くありませんでしたが、かんきょうフェアや総会、夏休み環境教室と先進事例視察等に参加することで意識が高まり始めました。

そんな矢先に世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄され、日本では2020年に緊急事態宣言が発令されました。環境をよくする会もコロナ禍の影響を受け、活動が収縮するだけでなく会合も Web となり、実際に顔を合わせる機会も少なくなっていました。

2023年5月に感染症法上の位置づけが「5類」に移行し、日常生活が戻ったところで令和5年度、6年度に会長という重責に就くことになり、ごみ問題や地球温暖化対策について、より一層取り組む必要性を感じるようになりました。

コロナ禍が明け、会長就任後の大きなイベントとして『かんきょうフェア2023』が開催されたことが印象に残っています。2023年は統一地方選挙の年で相模原市民まつりも【若葉まつり】として5月に開催されました。当日は雨も時々降り5月としては少し肌寒い気候でした。そんな中でもかんきょうフェアには1,000人以上の来場者があり、準備したノベルティも殆んど無くなり大変盛況だった記憶が残っています。

今年の4月で環境をよくする会の会長を終えましたが、充実した2年間で非常に楽しむことも出来ました。それも事務局の皆さまをはじめ、役員及び会員の皆さまの支えがあったからだと思っています。皆さまにはあらためてお礼申し上げます。

最後になりますが、わたくしは今年の7月で役員を後任にバトンタッチすることになりました。事務局の皆さまをはじめ、役員及び会員の皆さまには大変お世話になりました。

40周年を節目に『相模原の環境をよくする会』の益々の発展と関係各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

相模原の環境をよくする会の思い出

(前) 三菱電機株式会社 渡部 一浩



相模原の環境をよくする会、40周年おめでとうございます。私が相模原の環境をよくする会にお世話になったのは2008年で、前任者より担当を引継ぎ、その後16年間参加させて頂きました。ふと気が付くと諸先輩方も担当変更となり一番の古株になってしまいました。本会の担当となったのは前任よりスターウォッチングなどの行事を担当しないかとの声かけで天体観察を趣味としていた自分にピッタリと思い担当交代することになりました。それからは、色々な行事に参加させていただき色々と思い出も残りましたのでご紹介させていただきます。

参加動機となったスターウォッチングは、年2回開催で市立博物館のテラスより、夏はこと座のベガの辺り、冬はすばるの辺りを双眼鏡で観察して何等星まで見えるかを観察して市内の空の透明度や光害の状況を記録する行事でした。子ども達は我々大人よりも視感度が高いので暗い星まで見えていたことが強く印象にのこりました。子ども向けの行事として魚類の放流事業がありました。市内の幼稚園児に対して相模川に魚の放流体験をするもので、沢山の小さなバケツに魚を小分けして子ども達が放流します。放流する仕草がとても可愛らしく印象に残っています。現在はスターウォッチングと魚類放流事業は行われていませんが、子ども時代に環境の大切さを体験できる良い行事であったと思います。近年の行事での思い出は、野鳥観察と写真教室です。野鳥観察は相模原公園や貯水池で観察するのですが、最初の頃は鳥の名前も分からず、見わけもつかなかったのを覚えています。回を重ねるたびに徐々に鳥の名前や見分ける特徴、歩き方や飛び方、一部の鳥は鳴き声でも判るようになるもんですね。同様に写真教室も構図とか画角とか被写体深度とかこれも最初はよく判りませんでした。色々いじりながら撮影を繰り返すことで、こうするとこうなるの関係が参加回数を重ねるたびに理解が深まるようになりました。

というように、参加者の方々と共に楽しんでいたことが多かったと強く印象にのこる経験をさせていただきました。

最後に本会事務局の皆様や、会員企業代表の方々と様々な会の活動を通じて色々な交流や体験を得ることができ、会社生活の中でも楽しい思い出がたくさん残ったことに感謝申し上げますと共に、「相模原の環境をよくする会」の益々のご発展と会員企業のご繁栄をお祈り申し上げます。

「相模原の環境をよくする会」の思い出

(前) 一般財団法人生物科学安全研究所 中 村 晃



相模原の環境をよくする会、40周年おめでとうございます。

私が環境をよくする会に関わるきっかけは、30数年前に当時、津久井町に在住の折、自治会活動を一緒に行っていたU氏の推薦で、担当者ではなかったが河川生物相調査のみに参加することになりました。蝶の採集が趣味であり、昆虫には興味がありましたが、水生昆虫についての知識は皆無でした。年2回の調査を行う内に徐々に興味が沸き、相模原市と町田市の境を流れる境川を例にとると、上流の大戸では川幅が2m足らずですが、水量があり水温も冷たく透明感もあり指標生物もヘビトン

ボやヤゴ、サワガニなど常に10種類以上確認されたが、下流の中村橋では水は濁り、ヘドロが浮き異臭がして生物もイトミミズやヒルなどで3、4種類しか確認されませんでした。同一河川なのにこんなにも変化があるのかと驚きました。それから数年後、相模原市の上下水道工事が完了した結果、下流の水質に変化が現れ水は透明感を取り戻し、指標生物もきれいな水に棲む生き物に代わってきましたが、上流では残念なことに宅地化が進み水量が減って生物の種類も減り、考えるべき現実でした。

担当者が定年退職した為、私が担当を引き継ぐこととなって、他の事業にも参加させて戴き、自然観察ウォッチングの植物観察会では「緑の風」講師の知識の豊かさに感動し、野鳥観察会では世間一般に仲の良い夫婦を「オシドリ夫婦」と呼ばれていますが、実際のオシドリは毎年相手を変える浮気者だと知って笑い、カワラノギク観察では絶滅危惧種のカワラノギクの群生を目の当たりにして驚き、年間を通して保存する方の苦労も知りました。夏休み環境教室の道志川で川遊びの後、昼食で戴いた鮎の塩焼きは地元の有志が串刺して炭火で強火の遠火で2時間以上焼いた物で、魚を頭から食べた子ども達の笑顔が素敵でした。

20周年記念事業では「ねんど」に依頼し、晴天の下、相模原公園でオカリナ演奏会を開催しオカリナ愛好者や来園者で300人以上が集まり、会の存在を周知して頂きました。

この会の一番の素晴らしいことは、各異業種から集まった個性豊かな担当者です。「相模の蝶を詰る会」の世話人に入会を勧められ、町田駅近くの喫茶店で月一回の定例会に参加し情報交換をしたり、X氏とは勤務時間中に長話で自ビールの作り方の相談をしたり、T氏は自宅の庭に井戸を掘って蛍の養殖を行い、その一部を道保川公園に放流し、今では道保川公園が蛍鑑賞の名所になっております。W氏は自作で天体望遠鏡を完成し、その性能は相模原市立博物館の天体望遠鏡より高かったのには驚きました。その天体望遠鏡で星空観察しながら環境情報センターで「そば打ち」を行い「月見そばの会」を数回行った思い出が今でも忘れられません。

地球温暖化により世界各地で異常気象や自然災害が発生しています。日本でも夏に35度以上の猛暑日が続くすでに亜熱帯化しています。この環境を未来の子ども達に引き継がないためにも、一人一人がCO₂を出さないよう環境をよくする会が気候危機に立ち向かって啓発活動を草の根のごとく活躍して頂くことを期待します。

40 年 の
あ ゆ み

相模原の環境をよくする会 40年の軌跡

年 度	主 な 軌 跡
昭和 60	<p>「相模原の河川をきれいにする会」と「相模原の青空を守る会」が合併し、相模原の環境をよくする会」を創立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設立総会・祝賀会開催 ・ 第1回役員会及び各委員会初会合 ・ 広報、事業、調査の3委員会に分かれて各種事業の実施が始まる
昭和 61	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会のシンボルマークとスローガンを制定 ・ 「清流をとりもどそうマイタウン作戦」実施
昭和 62	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かながわ環境文化賞」受賞 ・ 映画「柳川堀割物語」の上映会を実施 ・ 「相模川を愛する会」に参加 ・ 「いきいき未来相模川プラン推進協議会」に参加 ・ 「都市緑化推進計画策定協議会」に参加 ・ 「かながわ都市緑化相模原フェア実行委員会」に参加
昭和 63	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自然観察ウォッチング」開始 ・ 「環境セミナー」開始
平成元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「緑化事業」開始 ・ 「ホタル教室」及び「ホタルの保護育成先進都市視察」開始 ・ 「役員県外視察」開始
平成 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中友好環境保全視察の実施 ・ (財) 神奈川県都市整備技術センターより「都市環境の創造に関する賞」受賞 ・ 「スターウォッチング」開始
平成 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水環境フォーラム91「生活排水を考える集い」にパネリストとして参加
平成 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境週間事業・緑化フェア関連事業を「アースイヤー事業」として実施 ・ 「不法投棄物撤去キャンペーン」参加 ・ 「相模原市環境宣言」の制定にあたり、宣言を朗読 ・ 「クリーンエアーフェスティバル」参加
平成 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境庁の「水環境賞」を受賞 ・ 創立10周年記念事業として、「環境写真コンテスト」「環境保全標語の募集」を実施 ・ 相模原市環境審議会に委員として参加 ・ 「さがみはら環境プラン推進協議会」に委員として参加 ・ 「相模原市生涯学習推進協議会」に委員として参加 ・ 市政40周年記念式典で市政功労表彰を受ける
平成 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立10周年記念式典・祝賀会開催
平成 9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「神奈川県環境保全功労者県央地区行政センター所長表彰」を受ける
平成 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「環境月間ポスター」作成開始
平成 12	<ul style="list-style-type: none"> ・ (社) 日本河川協会から表彰を受ける
平成 16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立20周年記念事業として、自然音楽会「オカリナとギターのアンサンブル」を開催

平成 17	<ul style="list-style-type: none"> ・創立20周年記念祝賀会開催 ・会ホームページ運用開始 ・「さがみはら環境まつり」に実行委員として参加
平成 18	<ul style="list-style-type: none"> ・「かんきょうフェア」の会場が環境情報センターとなる
平成 19	<ul style="list-style-type: none"> ・会規約を改正し、委員会体制を解消、副会長は1人体制になる
平成 20	<ul style="list-style-type: none"> ・国内最大級の環境総合展示会・エコプロダクツ2008に出展
平成 22	<ul style="list-style-type: none"> ・アース・デー in 相模原に参加 ・九都県市エコウェーブキャンペーンに参加 ・地球温暖化防止キャンペーンを橋本駅前で実施
平成 23	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の発生を受け、省エネ・節電を呼びかける環境月間キャンペーンを相模原駅で実施
平成 25	<ul style="list-style-type: none"> ・さがみはら地球温暖化対策協議会に監事として参加
平成 26	<ul style="list-style-type: none"> ・さがみはら森林ビジョン審議会に委員として参加
平成 27	<ul style="list-style-type: none"> ・創立30周年記念事業として、記念式典と講演会（講師：田崎真也氏）を開催
令和 2	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて多くの事業が中止となり、代替事業として市内の自然環境をテーマとした会員向け写真コンテストを実施
令和 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルを実施 ・会員向け写真投稿キャンペーンを SNS 上で実施 ・新たなロゴマークを作成
令和 4	<ul style="list-style-type: none"> ・さがみはら SDGs パートナーに登録
令和 7	<ul style="list-style-type: none"> ・創立40周年記念事業として、記念式典と講演会&トークショー（石丸謙二郎氏、井手大介氏）を実施。

設立に至る経緯

相模原市は、昭和33年に首都圏整備法に基づく市街地開発区域の指定を受け、これにより、市政施行時困難だった工場誘致も進み、県北における内陸工業都市として順調に発展してきました。

しかし、人口が増加し、都市化が進行した反面、昭和40年代に入ってから、水質汚濁、大気汚染などの公害問題が発生し、生活環境は次第に悪化していきました。市内の河川は、工場排水・生活排水により汚濁がひどくなり、また、大気も工場の排煙などによって汚染されていきました。

こうした状況の中、河川を汚濁から守ろうと、市内の工場が中心となって、河川浄化団体設立の気運が高まり、昭和43年12月、各種調査研究、啓発事業等を通じて水環境を保全すること目的に、「河川をきれいにする協議会」（昭和52年に、「相模原の河川をきれいにする会」と改称）が設立されました。

一方、昭和53年には、市内の工場を中心に、大気汚染防止技術の取得、公害防止施設の適正な管理などを通じて、大気環境の保全に努めることを目的に、「相模原の青空を守る会」が設立されました。

両団体は、独自に環境保全活動に取り組んできましたが、双方に所属している会員が多く、また、生活様式の多様化など社会情勢の変化に伴い、環境問題が従来の公害問題とは異なった様相をみせてきたことなどもあって、水質、大気だけでなくより広範な環境問題に取り組むため、合併して活動を充実させたほうがよいのでは、との意見が内部からあがりました。

これを受け、昭和59年に、両会役員による合併準備委員会が結成され、新団体設立に向けて、新団体の名称、会則、組織、事業計画及び予算等について細部にわたって検討が積み重ねられました。

そして、昭和60年4月「相模原の環境をよくする会」が設立されました。



全体活動のあゆみ

通常総会

市民桜まつりへの参加

環境月間（週間）事業

さがみはら環境まつりへの参加

役員視察

先進事例視察

県内水質保全団体連絡会研修会への参加

相模川水系水質保全連絡会施設調査への参加

「エコプロダクツ」への参加

その他の全体活動

○通常総会

創立以来、毎年4月に、通常総会を開催（昭和60年度は設立総会として開催）し、前年度の事業報告、決算報告及び当年度の事業計画（案）、収支予算（案）等を審議してきました。また、役員任期満了に伴う改選、長年にわたり当会の発展に寄与された役員表彰を行うなど、本会の活動を総括する重要な会議となっています。



○市民桜まつりへの参加

当会は、市民の皆さんに環境保全の大切さを伝えることを目的に、昭和60年の創立以来、市民桜まつりに参加してきました。

昭和60年度は「環境生物展」、昭和61年度から63年度までは「環境と人間の屋外セミナー」と題し、クイズやパネルの展示等を実施しました。平成元年度から、現在の「かんきょうフェア」という名称になり、平成4年度からは「電気自動車試乗会」も実施してきました。平成18年度からはこの年に



開設された環境情報センターへ会場を移し、当会や会員事業所の活動紹介、エコチェック（平成31年からはクイズラリー）、エコ工作、エコ宣言カードづくりなどを行ってきました。例年、エコチェックやクイズラリーに参加した方にはエコバッグなど啓発グッズの配布を行っています。

多くの市民の皆さんとふれあいながら環境について考えられる事業として、今後も継続していきます。

○環境月間（週間）事業

昭和60年の創立以来、6月の環境月間（週間）期間中に、市民の皆さんの環境保全意識の高揚を図るため、各種事業を実施してきました。平成3年度から平成24年度まで、「環境保全街頭キャンペーン」を実施し、環境配慮製品を配布して、市民の皆さんに環境に配慮した生活を心掛けるよう呼びかけてきました。

このほかにも、調査委員会が実施する「ホテル教室」を環境月間事業として開催してきました。



年 度	実 施 事 業
昭和 60	1. 記念講演会「快適環境について」講師：増田善郎（（財）日本環境協会参与） 2. 公害防止研究発表会 発表者：日本金属工業(株)
昭和 61	1. 記念講演会「騒音問題について」講師：田村明弘（横浜国立大学助教授） 2. 公害防止研究発表会 発表者：協栄産業(株)
昭和 62	1. 記念講演会「最近の環境問題について」講師：猿田勝美（神奈川大学教授） 2. 公害防止研究発表会 発表者：住友スリーエム(株)
昭和 63	1. 記念講演会「南極からこんにちは～地球の汚染を考える～」 講師：山内恭（国立極地研究所助教授） 2. 映画会「GOGO 子供発見団」
平成 元	1. 記念講演会「地球の環境破壊を考える」講師：谷山哲郎（農学博士） 2. 映像「地球大紀行」（NHK ビデオ）
平成 2	1. かんきょうウォークラリー 場所：相模原公園
平成 3	1. 「ミスさがみはら」による街頭キャンペーン 場所：JR 相模原駅前 2. 記念講演会「地球環境と私たちの暮らし」 講師：福岡克也（立正大学経済学部長）
平成 4	1. 地球環境保全啓発用横断幕掲出 場所：市役所玄関ベランダ 2. 「ミスさがみはら」による街頭キャンペーン 場所：相模大野コリドー 3. 記念講演会「地球から地域へ～みどりの相模原でエコシティとエコライフスタイルを考える」 講師：進士五十八（東京農業大学教授）
平成 5～ 6	1. 「ミスさがみはら」による街頭キャンペーン 場所：相模大野コリドー
平成 7～ 8	1. 「ミスさがみはら」による街頭キャンペーン 場所：サンデッキ相模大野
平成 9～ 16	1. 環境保全街頭キャンペーン 場所：サンデッキ相模大野
平成 23	環境月間キャンペーン 場所：JR 相模原駅南口ペデストリアンデッキ
平成 24	環境月間キャンペーン 場所：小田急相模大野駅ステーションスクエア 3F 自由通路

○さがみはら環境まつりへの参加

市民の環境意識の向上や環境学習の推進を目的とした「さがみはら環境まつり」には、平成17年度の開始当初から当会は実行委員として開催に携わっているほか、ブースを出展し、会や会員事業者の活動紹介などを行っています。

開始当初は麻布大学を会場としていましたが、近年はミウイ橋本、ユニコムプラザさがみはら、青山学院大学など様々な場所で開催をしており、広く市民に環境啓発を呼びかけるイベントとなっています。



○役員視察

役員視察は、本会の調査・研究事業の一環として、先進地の視察を行うことにより、役員の研鑽を図り、会の運営と活動の一層の発展を期して、平成元年度から平成16年度まで実施していたものです。当初は県外の先進地を中心に視察を行っていましたが、平成15、16年度はより効率的な事業実施を目指し、県内も含め、当会の運営・活動に役立つ先進的な企業・施設を対象に視察を行いました。

年 度	実施日	人 数	視 察 先
平成 元	7/14、15	24 名	通産省工業技術院地質研究所、日本電気(株)我孫子工場
平成 2	7/20、21	24 名	豊田市 トヨタ自動車(株)
平成 3	7/19、20	23 名	(株)ダイセキ、足尾銅山跡地
平成 4	9/ 4、 5	22 名	セイコーエプソン(株)、茅野市八ヶ岳総合博物館 他
平成 5	7/16、17	25 名	中部電力(株)碧南火力発電所、日本金属工業(株)衣浦製造所
平成 6	7/ 8、 9	23 名	日鉄セミコンダクター(株)館山工場、東京電力富津火力発電所・新エネルギーパーク
平成 7	7/ 7、 8	19 名	(株)ニコン水戸製作所、ひたちなか地区
平成 8	8/30、31	26 名	長野日本電気(株)、黒部ダム
平成 9	7/ 4、 5	26 名	長良川河口堰、名古屋市下水道科学館
平成 10	7/17、18	20 名	(株)ツガミ、奥只見発電所
平成 11	7/ 2、 3	20 名	三菱電機(株)群馬製作所
平成 12	7/21、22	11 名	キリンビール(株)栃木工場、宇都宮市農林公園
平成 13	7/ 6、 7	10 名	ソニーイーエムシーエス(株)美濃加茂テック、岐阜公園、名和昆虫博物館 他
平成 14	7/ 5、 6	6 名	大塚ペパレジ(株)袋井工場、航空自衛隊浜松広報館 他
平成 15	7/ 3	14 名	富士フイルム(株)足柄工場、アサヒビール(株)神奈川工場
平成 16	7/13	19 名	日産自動車(株)横浜工場、(株)啓愛社

○先進事例視察

公害防止及び環境保全に関する先進的な取組を行う優良企業、施設等を視察しています。エネルギー関連施設や自然との共生をすすめる企業の取組みなどの見学は、参加者に好評を得ており、会員の研鑽を深めるとともに相互の理解と親睦を図るものとして平成19年度から行っています。



年 度	実施日	人 数	視 察 先
平成 19	1/30	5 名	地球環境とエネルギーの調和展「ENEX2008」 (東京ビックサイト)
平成 20	10/17	20 名	東京電力(株)葛野川発電所、葛野川ダム
平成 21	6/5-6	24 名	東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所、奥清津発電所
	9/18	17 名	東京ガス(株)千住テクノステーション、 東京ガス(株)横浜研究所
平成 22	11/26	19 名	神奈川県立生命の星・地球博物館、アサヒビール(株)神奈川工場
平成 23	11/11	12 名	東京ガス(株)千住テクノステーション、日産自動車(株)横浜工場
平成 24	11/20	11 名	業務用・産業用のエネルギーソリューション総合展 「熱電プラザ2012」 会場：東京ビックサイト 麒麟横浜ビアビレッジ
平成 25	12/ 5	10 名	東京電力(株)川崎火力発電所、東京ガス(株)扇島パワーステーション
平成 26	1/22	14 名	東京ガス(株)供給指令センター、みなとみらい21熱供給
平成 27	2/10	18 名	東京都廃棄物埋立処分場、日産自動車(株)座間事業所（オートモーティブエナジーサプライ(株)、日産ヘリテージコレクション）
平成 28	1/18	11 名	田町スマエネパーク、エコミラ江東、えこっくる江東、東京スイソミル
平成 29	10/19	12 名	成友興業(株)城南島第二工場、(株)タケエイ東京リサイクルセンター、中間貯蔵・環境安全事業(株)、東京 PCB 処理事業所、東京都環境公社
平成 30	11/21	18 名	JAL 整備工場、東京国際空港ターミナル
平成 31 (令和元年度)	10/24	17 名	海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 横須賀本部、日産自動車(株)追浜工場
令和 2	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響のため、事業実施せず。
令和 3	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響のため、事業実施せず。
令和 4	11/21	13 社	(株)JERA 川崎火力発電所（オンライン視察）
令和 5	11/ 9	11 名	東京ガス扇島 LNG（液化天然ガス）基地

年 度	実施日	人 数	視 察 先
令和 6	11/ 5	17 名	三菱重工エンジン&ターボチャージャ(株)、 東急建設(株)技術研究所

○県内水質保全団体連絡会研修会への参加

当会の前身である「相模原の河川をきれいにする会」の時代から毎年、県内の水質保全団体が集まって開催される共同研修会に参加してきました。主に、環境問題に関する講演、視察を行っており、当会の活動に大変役立ちました。他団体との情報交換、相互連携を図る数少ない機会としても、大変有意義な研修会でした。

○相模川水系水質保全連絡会施設調査への参加

相模川水系水質保全連絡会は、相模川水系における各団体間の連携を目的に設立されたもので、活動の一環として、相模川水系等の関係施設及び最新の技術研究施設等の調査を行っており、当会は平成9年度から参加しています。この調査は、水処理状況を把握し、併せて水環境の大切さを考えることを目的に開催されているもので、当会の活動に大変役立っています。

○「エコプロダクツ」への参加

国内でも最大級の環境総合展示会である「エコプロダクツ」に平成20、21年に参加しました。ビジネスマンから小中学校の社会科見学、ファミリー層まで環境に関心のある幅広い層が来場し、当会の活動をPRすることができました。

会 場：東京ビックサイト

入場者数：183,000人（H21・3日間延べ）



○その他の全体活動

・設立総会・設立記念祝賀会（昭和60年）

当会が設立された昭和60年4月の総会は、設立総会として行われ、設立を記念した祝賀会も催されました。

・環境保全パトロール（昭和60年）

本会の前身である「相模原の河川をきれいにする会」が河川に設置した河川浄化啓発用看板の状況調査を実施しました。

・河川愛護団体との懇談会（昭和61年）

浜松市河川維持課が事務局をつとめる河川愛護団体「馬込川をきれいにする会」が当会を視察訪問し、活発な情報交換が行われました。

・県民ミニ討論会への参加（昭和61年）

県央地区行政センターの主催で、県厚木合同庁舎にて「かながわの海を考える」をテーマとする県民ミニ討論会が開催され、当会会長が出席しました。

・相模川を愛する会に参加（昭和62年）

当会会長が、相模川を愛する会の副会長として総会等に出席しました。

現在は、当会副会長が理事として会の活動に携わっています。

・かながわ環境文化賞表彰（昭和62年）

「かながわ環境文化賞」は県土の自然保護や快適環境の創造など、地域の環境文化の向上や発展に努力し、その功績が顕著な個人、団体に贈られるもので、当会の日頃の環境保全活動が高く評価されての受賞でした。

・いきいき未来相模川プラン推進協議会への参加（昭和62年）

市民団体のひとつとして、当会会長が総会等に出席しました。

・かながわ都市緑化相模原フェア実行委員会への参加（昭和62年）

環境保全団体として、本会副会長が委員会に出席しました。

・日中友好環境保全視察（平成2年）

相模原市と中国・無錫市との友好5周年を記念して、日中友好環境保全視察が実施されました。友好を深めると同時に、地球的規模にたった環境保全対策を中国から学ぶことを目的に、総勢16名から成る「日中友好環境保全視察団」が、市長からの親書を携えて中国を訪問し、先々で熱烈な歓迎を受けました。



日 程	内 容
5/20	上海工業展覧会の視察、無錫市主催の歓迎宴
5/21	無錫市役所表敬訪問、恵山泥人形工場の視察、錫恵公園の見学、中国華晶電子集団会社の視察、シルク工場の視察、答礼宴の開催
5/22	蘇州市内視察（留園等）
5/23	上海市内視察（百壇扇子工場等）
5/24	北京市内視察（故宮博物館等）

・水環境フォーラムへの参加（平成3年）

海老名市文化会館にて、県、海老名市、県市町村生活排水対策推進協議会主催による、生活排水をテーマとした水環境フォーラムが開催されました。当会からも会員がパネリストとして参加し、当会の歴史、水やホテルに関する活動などを紹介しました。

・緑化フェア関連事業（平成4年）

相模原市で「全国都市緑化かながわフェア グリーンウェーブ相模原 '92」が開催され、市民の環境への意識が高まりを見せました。当会もさまざまな形でグリーンウェーブに関わりを持ち、市民に当会の存在をアピールすることができました。

日 程	事 業 名	事業内容
9/19	不法投棄物撤去キャンペーン参加	緑化フェア会場周辺の不法投棄物の撤去、不法投棄追放宣言の実施
11/14 ～ 23	クリーンエアーフエスティバル参加（県に協賛）	低公害車パレードへの参加・記念品の提供、地球環境パネルの展示
11/20	「相模原市環境宣言」発表	当会副会長が代表として宣言

・環境庁「水環境賞」受賞（平成6年）

本会創立10周年記念の年、環境庁が実施する「水環境フォーラム」において、水環境の保全に特に功績があった個人・団体に贈られる「水環境賞」を受賞しました。



・創立10周年記念事業

《環境保全標語・環境写真の募集》（平成6年）

創立10周年を記念して、自然とのふれあい、環境にやさしい行動や暮らし、まちづくり、公害の防止などをテーマに、環境保全標語と環境写真の募集を行いました。会員だけでなく広く一般から作品を募ったところ、標語には487点、写真には88点の応募がありました。

環境保全標語 最優秀賞

「ゴミの量 出さない努力と減らす知恵
みんなで守ろう 自然と資源」
(八巻 豊 セントラル自動車株)

環境写真コンテスト 最優秀賞

「リバーサイド」
(羽毛田 栄吉 セントラル自動車株)



《記念式典・祝賀会》（平成7年）

創立10周年記念式典は、会員・来賓等約90名の出席を得て、盛大に開催され、10年間のあゆみの報告、功労者表彰、記念講演などが行われました。引き続き、創立10周年を全会員で祝い、また、会の活動に多大なるご協力をいただいた関係機関、諸先輩方に感謝の意を表そうと、祝賀会を開催しました。



・創立20周年記念事業

《環境セミナー「自然音楽界～オカリナとギターのアンスンブル～」》（平成16年）

創立20周年記念事業として、平成16年11月27日（土）に環境セミナーを催しました。

従来の「環境セミナー」は、より良い環境の創造に向けて、会員の工場・事業所社員を対象に、広く環境問題の課題について情報提供を行うことを趣旨とし、講師を招いての講演会を開催してきましたが、会創立20周年記念事業として多くの市民の皆さんが気軽に参加



でき、本会の存在や活動内容を知ってもらえるようにと、県立相模原公園を会場にオカリナとギターによる演奏会を企画し、環境保全意識の啓発を図りました。

当日は天候にも恵まれ、市民約400名の参加がありました。

《会員の環境保全活動アンケート調査》（平成16年）

創立20周年を機に、各会員の環境保全活動の実態を把握し、環境保全に向けた取組みをすすめる際の参考とするため、企業等の環境への取組みのあり方についてや従業員等に対する環境教育の状況などを設問とした会員アンケートを実施しました。

実施当時の127会員中67会員から回答がありました。

・創立30周年記念事業

《記念式典・講演会》（平成27年度）

創立30周年記念事業として、平成27年10月7日（水）に記念式典と講演会を開催しました。講演会では世界的ソムリエである田崎真也氏を講師としてお招きし、「世界的ソムリエの環境のハナシ」と題し、相模原での原体験が感性を磨いたことや地球温暖化によるワインへの影響などをお話いただきました。



会員以外からも広く参加を募集し、約150名の来場がありました。

・アース・デー in 相模原への参加（平成22年度）

相模原初のアース・デーイベントに当会からも参加し、会の活動紹介や啓発物品の配布を行いながら市民等に環境問題に関心を持ってもらうよう呼びかけました。

会場：相模大野駅コンコース及び広場

・九都県市エコウェーブキャンペーンへの参加（平成22年度）

地球温暖化防止啓発活動の一環として、日常生活の中で温暖化対策を実践するきっかけになるよう呼びかけるキャンペーンに当会も参加し、啓発グッズの配布やパネル展示を行いました。

会場：相模大野駅南北自由通路



・地球温暖化防止キャンペーン（平成22～24年）

「地球温暖化防止月間」である12月に、地球温暖化問題に対する市民意識の普及や向上を目的として、会独自のキャンペーンを行いました。

会場：橋本駅、相模原駅

・『～私が見つけた～さがみはらの自然フォトコンテスト』（令和2年度）

新型コロナウイルス感染症の影響から、例年実施していた写真教室の代替として、会員向けの市内の自然の再発見をテーマにしたフォトコンテストを行いました。会員の皆様やご家族23名より、26作品の力作が集まり、市内在住の写真家の高橋ぎいち先生に審査をいただきました。



金賞 リヴァスポット早戸で自然を満喫
撮影者 三菱重工エンジン&ターボチャージャ(株)
吉田 順一さん



銀賞 「日向ぼっこ」
撮影者 三菱電機(株) 鎌倉製作所 相模事務所
渡部 一浩さん



銀賞 「津久井湖畔」
撮影者 三菱重工業(株) 相模原製作所
織田さん（ペンネーム）

・フォト投稿キャンペーン（令和3年度～）

令和3年度より、SNSのハッシュタグ『#相模原の環境をよくするフォト』をつけて市内の自然、環境活動について発信するフォト投稿キャンペーンを開催しています。

これまで多くの作品を投稿いただいております、今後も取り組みを続けていきます。

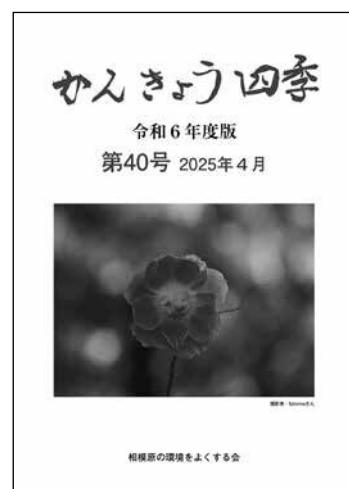
広報活動のあゆみ

- 会報「かんきょう四季」の発行
- 機関紙「かんきょう四季 かわら版」の発行
- 会の紹介チラシの作成
- 環境月間ポスターの作成
- ホームページの作成
- その他の広報活動

○会報「かんきょう四季」の発行

当会では、毎年1回、会報「かんきょう四季」を発行し、その年の活動報告、河川生物相調査・環境保全意識アンケート調査等の結果、会員の声などを主に掲載したほか、会の活動以外にも特集として、一般の方にも親しめる環境時事を採りあげたり、相模原市環境保全条例などを掲載したりして、各種環境情報を会員に対し提供してきました。

なお、提供先としては、会員はもちろん、各種の環境啓発イベント等において一般の方にも会の活動を知っていただけるよう、配布してきました。



年度	号数	部数	主な掲載内容
昭和 60	第 1 号	500 部	特別寄稿「創刊に寄せて」、公害防止事例発表、座談会「よりよい環境づくりに向けて」、昭和 60 年度事業報告 など
昭和 61	第 2 号	500 部	座談会「住みよい郷土づくりに向けて」、公害防止事例発表、昭和 61 年度事業報告 など
昭和 62	第 3 号	500 部	特集「かながわ環境文化賞受賞」、公害防止事例発表、昭和 62 年度事業報告 など
昭和 63	第 4 号	500 部	環境週間記念講演会報告「南極からこんにちは」、化学物質使用実態調査結果、昭和 63 年度事業報告 など
平成 元	第 5 号	500 部	環境セミナー報告「地下水汚染を考える」、平成元年度事業報告 など
平成 2	第 6 号	600 部	特集「日中友好環境保全視察団報告」、平成 2 年度事業報告など
平成 3	第 7 号	600 部	環境セミナー報告「地球環境と企業の役割」、平成 3 年度事業報告 など
平成 4	第 8 号	1,000 部	緑化フェア関連事業報告、環境セミナー報告「自動車排ガス特別措置法について」、平成 4 年度事業報告 など
平成 5	第 9 号	1,000 部	環境セミナー報告「まちなみと事業所緑化」、平成 5 年度事業報告 など

平成 6	第 10 号	1,000 部	【創立 10 周年記念特集号】 10 年のあゆみ、歴代会長・事務局局長寄稿、役員寄稿、平成 6 年度事業報告など
平成 7	第 11 号	1,000 部	環境セミナー報告「環境防災対策について」、平成 7 年度事業報告 など
平成 8	第 12 号	1,000 部	環境セミナー報告「環境国際規格 ISO14000 シリーズへの対応」、平成 8 年度事業報告 など
平成 9	第 13 号	600 部	神奈川県環境保全功労者県央地区行政センター所長表彰受賞、平成 9 年度事業報告 など
平成 10	第 14 号	600 部	平成 10 年度事業報告 など
平成 11	第 15 号	600 部	特集「ISO 環境マネジメントシステムの認証取得について」、平成 11 年度事業報告 など
平成 12	第 16 号	400 部	平成 12 年度事業報告 など
平成 13	第 17 号	400 部	特集「国の環境施策と法令について」、平成 13 年度事業報告 など
平成 14	第 18 号	400 部	特集「ホテル」、平成 14 年度事業報告 など
平成 15	第 19 号	400 部	特集「相模原市自然環境観察員制度」、平成 15 年度事業報告 など
平成 16	第 20 号	350 部	【創立 20 周年記念特集号】 20 年のあゆみ、会員アンケート調査結果、平成 16 年度事業報告 など
平成 17	第 21 号	350 部	平成 17 年度事業報告 など
平成 18	第 22 号	350 部	河川生物相調査報告、環境保全意識アンケート調査結果 平成 18 年度事業報告 など
平成 19	第 23 号	350 部	河川生物相調査報告、環境保全意識アンケート調査結果 平成 19 年度事業報告 など
平成 20	第 24 号	350 部	河川生物相調査報告、環境保全意識アンケート調査結果 平成 20 年度事業報告 など
平成 21	第 25 号	350 部	河川生物相調査報告、環境保全意識アンケート調査結果 平成 21 年度事業報告 など
平成 22	第 26 号	350 部	河川生物相調査報告、環境保全意識アンケート調査結果 平成 22 年度事業報告 など
平成 23	第 27 号	350 部	河川生物相調査報告、環境保全意識アンケート調査結果 平成 23 年度事業報告 など
平成 24	第 28 号	350 部	河川生物相調査報告、平成 24 年度事業報告 など
平成 25	第 29 号	350 部	河川生物相調査報告、平成 25 年度事業報告 など
平成 26	第 30 号	350 部	河川生物相調査報告、平成 26 年度事業報告 など
平成 27	創立 30 周年 記念特別号	350 部	30 年間のあゆみ、30 周年記念特別寄稿、30 年の軌跡など
	第 31 号	350 部	創立 30 周年記念特別号の発行、河川生物相調査報告、平成 27 年度事業報告など

平成 28	第 32 号	350 部	創立 30 周年記念事業のアンケート結果、河川生物相調査報告、平成 28 年度事業報告など
平成 29	第 33 号	350 部	河川生物相調査報告、平成 29 年度事業報告など
平成 30	第 34 号	350 部	河川生物相調査報告、平成 30 年度事業報告など
平成 31 (令和元年度)	第 35 号	350 部	河川生物相調査報告、平成 31 年度事業報告など
令和 2 年	第 36 号	350 部	河川生物相調査報告、令和 2 年度事業報告、わたしがみつけたさがみはらの自然フォトコンテスト審査結果など
令和 3 年	第 37 号	250 部	河川生物相調査報告、令和 3 年度事業報告など
令和 4 年	第 38 号	250 部	河川生物相調査報告、令和 4 年度事業報告など
令和 5 年	第 39 号	250 部	河川生物相調査報告、令和 5 年度事業報告など
令和 6 年	第 40 号	250 部	河川生物相調査報告、令和 6 年度事業報告など

○機関紙「かんきょう四季かわら版」の発行

「かんきょう四季かわら版」は会員に対して、当会の事業報告及び運営等に関する情報の提供をするとともに、会員相互の連携を密にすることを目的に、会発足から10年間は年2～3回、10年以降はおおむね年2回のペースで発行してきました。シリーズものとしては、会員会社相互のコミュニケーションの促進を目的とした「我が社の紹介」、環境週間における事業所の取り組みを紹介した「我が社の環境週間・月間」などがあります。また、環境問題は、企業の経営を左右する最も重要な要素として位置付けている企業が増加しており、会員企業の環境保全の一助となればと、法廷の制定や改正などがあつた際には、「行政・法令の動向」の中で紹介及び解説し、いち早く会員に情報を提供してきました。



令和2年度より、ホームページ等による情報発信の強化に伴い、72号をもって発行を終了しました。

年度	号	主 な 内 容
昭和 60	1	部会紹介、行政・法令の動向（鳩川水質汚濁常時自動監視測定所設置等）など
	2	環境保全標語最優秀作品発表、行政・法令の動向（公害苦情の状況）など
昭和 61	3	会のスローガン・シンボルマーク等の発表、会員アンケート結果中間報告など
	4	ホテル保護育成事業報告、行政・法令の動向（申請書の様式等について）など
昭和 62	5	我が社の環境週間（三菱電機(株)、日産自動車(株)）など
	6	「かながわ環境文化賞」受賞報告、環境保全標語最優秀作品発表など
昭和 63	7	我が社の環境週間（カヤバ工業(株)、日本金属工業(株)）など
	8	我が社の紹介（銘光日黒工業(株)）など
平成 元	9	我が社の環境週間（東プレ(株)）、行政・法令の動向（水質汚染防止法） など
	10	我が社の紹介（カルピス食品工業(株)、日本電気(株)）など
	11	我が社の紹介（新キャピラー三菱(株)、凸版印刷(株)）など

平成 2	12	我が社の環境週間(新キャタピラー三菱株)、我が社の紹介(株田村電機製作所) など
	13	我が社の紹介(三友プラントサービス株) 公害防止モデル工場視察報告など
	14	我が社の紹介(セントラル自動車株)、行政・法令の動向(大気汚染防止法) など
平成 3	15	我が社の環境週間(昭和電線電纜株)、我が社の紹介(住友スリーエム株) など
	16	我が社の紹介(日本金属工業株、山村硝子株) など
	17	我が社の紹介(日産自動車株)、行政・法令の動向(電気自動車を市が導入)
平成 4	18	我が社の環境週間(日本電気株)、我が社の紹介(東京綜合写真株) など
	19	我が社の紹介(カルピス食品工業株、ワーナーランバード株) など
	20	我が社の紹介(東プレ株、フジマル工業株) など
平成 5	21	我が社の環境週間(株ニコン)、我が社の紹介(相互薬工株、株アクア) など
	22	我が社の紹介(アイダエンジニアリング株、旭硝子マテックス株、株伊勢丹) など
平成 6	23	我が社の環境週間(株オハラ)、我が社の紹介(日本電子工業株) など
	24	我が社の紹介(日本ゼトック株、株相模オプト) など
平成 7	25	我が社の環境月間(住友スリーエム株)、我が社の紹介(富士印刷株) など
	26	我が社の紹介(株シノテスト、アイダウェルディング株、タイヨー印刷株) など
平成 8	27	我が社の環境月間(三菱重工株)、我が社の紹介(ジャスコ株) など
	28	我が社の紹介(大昌工業株)、行政・法令の動向(相模原市環境基本条例) など
平成 9	29	我が社の環境月間(帝人株)、我がキャンパスの紹介(國學院大學) など
	30	我がキャンパスの紹介(女子美術大学)、会広報チラシの紹介など
平成 10	31	我が社の環境月間(三友プラントサービス株)、我が研究所の紹介((財)畜産生物科学安全研究所) など
	32	我が社の紹介(株ニコン)、ダイオキシンの抑制に向けてなど
平成 11	33	我が社の環境月間(相互薬工株)、我が社の紹介(株イムラ封筒) など
	34	我が社の紹介(日本板硝子株)、行政・法令の動向(PRTR法) など
平成 12	35	ISO14001について(日本化工機材株)、我が社の紹介(株ジャパンビークル) など
	36	我が社の紹介(東京ガス株)、行政・法令の動向(廃棄物処理法改正) など
平成 13	37	我が社の環境月間(大和製罐株)、我が社の紹介(東京特殊印刷工業株) など
	38	我が社の紹介(大栄フーズ株)、行政・法令の動向(PRTR法) など
平成 14	39	我が社の環境月間(セントラル自動車株)、我が社の紹介(カルピス物流サービス株) など
	40	我が社の紹介(北里サービス代行株)、新規会員募集 など
平成 15	41	我が社の環境月間(カルピス株)、我が社の紹介(相模原環境カウンセラー協議会) など
	42	我が社の紹介(株リョーイン)、新規会員募集 など
平成 16	43	我が社の環境月間(凸版印刷株)、我が社の紹介(昭和電線電纜株) など
	44	我が社の紹介(日本電気株)、低公害自動車の普及促進に向けて など
平成 17	45	我が社の紹介(富士工業株)、会のHP「よくする会ドットJ P」のお知らせ など
	46	我が社の紹介(オルガノ株)、事業報告 など
平成 18	47	我が社の紹介(東京電力株、日本板硝子株) 市立環境情報センターの紹介
	48	我が社の紹介(帝京大学相模湖キャンパス)
平成 19	49	我が社の紹介(日産自動車株) かんきょうフェア など
	50	我が社の紹介(三菱電機株)、事業の紹介など

平成 20	51	我が社の紹介 (中田屋(株) かんきょうフェア 2008 など
	52	我が社の紹介 (キャタピラージャパン(株)、事業の紹介 など
平成 21	53	我が社の紹介 (オハラ(株) かんきょうフェアなどの事業の報告と紹介 など
	54	我が社の紹介 (尾崎理化(株)、事業の報告と紹介 など
平成 22	55	我が社の紹介 (シップスレインワールド(株) 事業の報告と紹介 など
	56	我が社の紹介 (大和製罐(株)、神奈川県環境保全功労者表彰 など
平成 23	57	我が社の紹介 (峡の原工業団地協同組合) 総会および事業の報告と紹介 など
	58	我が社の紹介 (株ヤマダコーポレーション)、事業の報告と紹介 など
平成 24	59	我が社の紹介 (株宝月堂文具店・株リガルジョイント) かんきょうフェアなどの事業の報告と紹介 さがみはら地球温暖化対策協議会への参加報告 など
平成 25	60	我が社の紹介 (北里環境科学センター) 新会長の挨拶 事業の報告と紹介 など
	61	我が社の紹介 (北里環境科学センター)、「先進事例等視察」、「利根川水系水質保全連絡会施設調査」、事業の報告と紹介 など
平成 26	62	さがみはら環境まつりへの参加、事業の報告と紹介 など
	63	「絶滅危惧種カワラノギクと川原の植物観察会」「利根川水系水質保全連絡会施設調査」、事業の報告と紹介 など
平成 27	64	夏休み環境教室、事業の報告と紹介 など
平成 28	65	かんきょうフェア、事業の報告と紹介 など
	66	我が社の紹介 (日本トーカンパッケージ(株)相模原工場)、「絶滅危惧種カワラノギクと川原の植物観察会」「日産自動車(株)地域感謝デーへの出展」、事業の報告と紹介など
平成 29	67	我が社の紹介 (サガミ計測(株)、夏休み環境教室、事業の報告と紹介 など
	68	我が社の紹介 (株ユニックス)、「絶滅危惧種カワラノギクと川原の植物観察会」、「先進事例等視察」、事業の報告と紹介 など
平成 30	69	我が社の紹介 (株ライト)、夏休み環境教室、事業の報告と紹介 など
	70	我が社の紹介 (プライムデリカ(株)、「絶滅危惧種カワラノギクの観察と相模川ふれあい科学館見学ツアー」、事業の報告と紹介 など
平成 31 (令和元年度)	71	我が社の紹介 (ペンニッター(株)、夏休み環境教室、事業の報告と紹介 など
	72	「身近な植物の観察とプロに学ぶ写真教室」、「日産自動車(株)地域感謝デーへの出展」、「絶滅危惧種カワラノギクの観察と相模川ふれあい科学館見学ツアー」、事業の報告と紹介 など

○会の紹介チラシの作成

「相模原の環境をよくする会」の紹介チラシは、より多くの市民の方に本会の活動をご理解して頂き、そして活動にご参加頂くこと、また、新規会員を募集することを目的として作成しています。

内容は、企業の活動や、会のこれまでの経緯を紹介しているほか、会の活動を「あなたも参加してみませんか?」として一覧にまとめて掲載し、「わたしたちが今、できること」として市民の皆さんに環境保全を呼び掛ける内容となっております。



○環境月間ポスターの作成

本ポスターは、環境月間（6月1日～6月30日）にあわせて隔年で作成を行っており、「地球のために、わたしたちが今、できること」をスローガンとして作成し、会員に配布しております。環境月間のお知らせと当会の広報活動に是非活用して頂きたいと思えます。



○ホームページの作成（平成17年度～）

時流に合わせ、当会もホームページを開設し、イベント案内や企業の環境活動の取組み紹介などを行っています。

令和3年度にスマートフォンからも閲覧しやすくなるようリニューアルを行いました。



○その他の広報活動

・環境保全標語の募集（昭和60年～平成3年）

会員の環境保全思想の啓発を図る一環として、昭和60年、62年に環境保全標語の募集を行いました。最優秀に選ばれた作品は、当会作製の環境保全カレンダーに掲載しました。

また、昭和63年、平成3年には、環境週間にちなんで、相模原市が市民から広く環境保全標語を募集し、本会も積極的にこれに協力しました。

年度	主 な 内 容	
昭和 60	住みよい環境みんなの願い 豊かな自然に豊かな心	(陶山卓尚 氏 三菱電気株)
昭和 62	豊かな自然は市民の願い みんなで築こう相模原	(菅原三男 氏 日産自動車株)
昭和 63	空気も水も心も澄んで さわやか未来の相模原	(堀 多吉 氏)
平成 3	町ぐるみ捨てず流さず散らかさず いつもきれいな相模原	(関 義一 氏)

・シンボルマークとスローガンの制定（昭和61年）

当会のイメージを明確化するため、市民、会員から広くシンボルマークとスローガンを募集しました。選ばれたシンボルマークは、この年作製した会員章のモチーフに使用しました。

《シンボルマーク》

最優秀作品 山口浩文 氏（三ツ輪産業株）

《スローガン》

最優秀作品 生方 章 氏（新日本製鐵株）

「澄んだ水あふれる緑青い空 みんなで築こう相模原」



・環境保全カレンダーの作製（昭和60～63年）

前述の環境標語やスローガン及びシンボルマークを掲載したカレンダーを作製し、会員企業、市の主要施設及び小中学校に配布しました。

・ロゴマークの作成（令和3年度）

ホームページやSNSによる情報発信の強化に合わせ、シンボルマークに代わり、相模原の環境をよくする会を表す新たなロゴマークを作成しました。

デザインは東京藝術大学大学院に在籍しながらエコパークさがみはら（相模原市立環境情報センター）に勤務し、市内の環境教育等にも携わる鈴木初音さんにご作成いただきました。



事業活動のあゆみ

公害防止技術講習会・環境セミナー

河川浄化啓発用看板の設置

公害防止モデル工場視察

魚類の放流

自然観察ウォッチング

カワラノギクと河原の植物観察会

緑化事業

その他の事業活動

○公害防止技術講習会・環境セミナー

公害防止技術講習会は、昭和60年度から62年度にかけて公害に焦点を絞って、各会員会社の役に立つような様々な公害防止対策を講演内容として開催してきたものです。各会員会社において実践している公害防止対策の事例発表も行い、会員間の情報交換、研鑽の場として重要な事業のひとつでした。

環境セミナーは、公害防止に係る技術・知識を中心に講演や事例を行っていた「公害防止技術講習会」を見直し、環境問題の課題を考えていこうという趣旨のもと、昭和63年度より開催されています。環境問題に対する価値観が多様化してきている中、自然環境保護の観点から自然と共生できる循環型社会に目を向けた活動にも取り組んでいます。

今後とも会員の声を反映し、さらに一人ひとりの環境保全の意識が高まるよう充実したセミナーにしていきたいと考えています。

年度	開催日	人数	内 容
昭和60	1/17	64名	・「悪臭公害の現状と対策」 講師：森田剛史 氏（県公害センター主任研究員） ・事例発表「当社の排ガス対策技術」日本電気株
昭和61	1/29	50名	・「騒音対策について」 講師：脇谷禎一 氏（日本板硝子株） 岡田 健 氏（東昌エンジニアリング株）
昭和62	7/24	58名	・「神奈川県公害防止条例施行規則の一部改正について」 講師：市環境保全課 ・「相模原の生活環境について」 講師：市環境保全課
	2/5	100名	・「水質汚濁防止法の違反事例について」 講師：前田弘志 氏（県警察本部生活経済課） ・事例発表「水処理施設の維持管理について」 川端雅博 氏（オルガノ株）

昭和63	2/15	81名	・「地下水汚染を考える」 講師：中杉修身 氏（国立公害研究所） ・「公害関係諸法の届出等の留意点について」 講師：市環境保全課
平成元	11/ 8	84名	・「地下水汚染を考える」 講師：田口雄作 氏（通産省工業技術院地質研究所）
平成 2	11/14	54名	・「太陽そして私たちの地球」 講師：小山孝一郎 氏（宇宙科学研究所助教授）
平成 3	11/21	48名	・「地球環境と企業の役割」 講師：川名英之 氏（元毎日新聞解説委員）
平成 4	11/13	49名	・「自動車排ガス特別措置法について」 講師：秦 康之 氏（環境庁大気保全局）
平成 5	10/28	41名	・「事業所緑化について」 講師：依田久司 氏（県自然保護課）
平成 6	10/21	50名	・「排水基準の改正について」 講師：川添義明 氏（県水質保全課）
平成 7	11/30	38名	・「環境防災対策について」 講師：山村武彦 氏（防災アドバイザー）
平成 8	11/28	56名	・「環境国際規格 ISO14001 への対応」 講師：岡田俊夫 氏（日本電気環境エンジニアリング(株)）
平成 9	11/19	42名	・「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」について 講師：中島敏晴 氏（県環境総務室）
平成10	11/30	50名	・「科学物質と環境の保全」 講師：大島輝夫 氏（科学品安全研究所）
平成11	12/ 2	46名	・「PRTR 法について」 講師：山口元治 氏（県大気水質課）
平成13	6/21	30名	・「相模原市環境基本計画」 講師：市環境対策課
平成14	11/25	33名	・「環境活動評価プログラム」 講師：相模原環境カウンセラー協議会
平成15	11/25	32名	・環境問題全般について 講師：相模原環境カウンセラー協議会
平成16	11/27	市民 約400名	自然音楽会「オカリナとギターのアンサンブル」 演奏者：ねんど 場所：県立相模原公園
平成17	10/14	32名	・PRTR、企業と市民と行政のリスクコミュニケーション、リスクの考え方 講師：辻野泰子 氏（相模原環境カウンセラー協議会） ・京都議定書発効下での環境経営のあり方 講師：大掛猪津夫 氏（相模原環境カウンセラー協議会）
平成18	11/17	23名	・環境問題に対する消費者と事業者の役割 講師：大掛猪津夫氏（相模原環境カウンセラー協議会）
平成19	11/29	25名	・環境法令等の動向 講師：市環境保全課 ・環境配慮の時流をとらえよう 講師：小澤祥司 氏（環境ジャーナリスト）
平成20	2/13	17名	・環境問題全般について 講師：市環境保全課
平成21	3/11	28名	・政令市移行に伴う手続きの変更について ・土壌汚染対策法改正の概要について 講師：市環境保全課
平成22	中止（東日本大震災の発生による）		
平成23	3/29	18名	・水質汚濁防止法改正 講師：市環境保全課 ・協働による森づくり 講師：しみどりの協会
平成24	3/14	15名	・相模原市における地球温暖化対策の最新の動向について 講師：市環境政策課 ・カワラノギク（絶滅危惧種）の保全活動について 講師：岡田一慶 氏（カワラノギクを守る会）

平成25	3/18	19名	<ul style="list-style-type: none"> ・相模原市における環境影響評価制度について 講師：市環境政策課 ・写真教室～カメラを通して環境保全活動のきっかけを～ 講師：高橋ぎいち氏（写真家）
平成26	2/16	30名	<ul style="list-style-type: none"> ・相模原市水素エネルギー普及促進ビジョンについて 講師：市環境政策課 ・ESCO 事業のご案内 講師：一般社団法人 ESCO 推進協議会
平成27	3/4	30名	<ul style="list-style-type: none"> ・PCB 廃棄物処理の現状及び今後について 講師：中間貯蔵・環境安全事業(株) (JESCO) 代表取締役社長 谷津龍太郎氏
平成28	2/16	22名	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣条約の国連締結による水銀の取扱いについて 講師：化学物質アドバイザー 阿部正明氏
平成29	2/20	56名	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質対策について 講師：相模原労働基準監督署 大須賀徹氏 労働衛生コンサルタント 藤原政志氏 相模原市環境保全課職員
平成30	2/28	23名	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動適応に関する最新の動向や事業者求められる対策等について 講師：環境省関東地方環境事務所 環境対策課 川崎博満氏
平成31 (令和元年度)	-	-	中止（新型コロナウイルス感染症のため）
令和2	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず
令和3	2/25	現地 8名 オンライン 26名	<ul style="list-style-type: none"> ・相模原市の脱炭素への取組 講師：東急建設(株)技術研究所、市環境政策課職員
令和4年	8/19	21社 27名	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第1回「エコアクション21 相模原セミナー」事前説明会 講師：エコアクション21 地域事務局かながわ、プライムデリカ(株)
	2/21	現地 8名 オンライン 21名	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第2回「脱炭素社会に向けた事業者の取組について」 講師：国立環境研究所
令和5年	2/19	現地 14名 オンライン 17名	<ul style="list-style-type: none"> ・「カーボンニュートラルと地域企業の対応＜事業環境の変化と取組の方向性＞」 講師：経済産業省 環境経済産業局 資源エネルギー環境部 カーボンニュートラル推進課
令和6年	2/19	現地 24名 オンライン 18名	<ul style="list-style-type: none"> ・資源循環を踏まえた脱炭素社会に向けたごみ処理の今後の展望と課題 講師：(一財) 日本環境衛生センター

○河川浄化啓発用看板の設置

昭和49年「河川をきれいにする会」が発足し、当初78本の看板を、市内を流れる河川の橋付近に設置しました。これにより、市民への河川汚濁防止と環境意識の啓発を図ってきました。



○公害防止モデル工場視察

昭和60年に「相模原の環境をよくする会」が発足してから平成18年まで、公害防止、環境保全、省エネルギー化に対し、先進的な取り組みを行っている優良企業・施設などを視察しました。「公害防止モデル工場等の視察」は計20回実施し、会員企業間の情報交換・親睦を図りました。

年度	実施日	人数	視 察 先
昭和60	11/22	35名	三溪園、三菱重工(株)横浜製作所
昭和61	11/13	46名	富士ゼロックス(株)海老名事業所、小西六写真工業(株)小田原工場
昭和62	11/10	45名	リコー(株)御殿場工場、関東自動車(株)東富工場
昭和63	11/8	44名	キリンシーグラム(株)御殿場工場、静岡県清水町
平成元	10/13	45名	明治製菓(株)足柄工場、相模川流域下水道柳島管理センター
平成 2	10/23	40名	サントリー(株)白州蒸留所
平成 3	10/16	40名	我孫子市手賀沼親水場「水の館」、(財)電力中央研究所我孫子研究所
平成 4	10/23	38名	神奈川県環境科学センター、関西ペイント(株)平塚工場
平成 5	11/12	47名	日産自動車(株)追浜工場、金沢八景・八景島シーパラダイス
平成 6	11/17	45名	新日本製鐵(株)君津製鉄所
平成 7	10/30	36名	キリンビール(株)横浜工場
平成 8	10/22	29名	富士ゼロックス(株)総合研究所、県立「生命の星・地球博物館」
平成 9	10/14	26名	東京臨海副都心、東京臨海熱供給(株)
平成10	10/8	21名	東京電力技術開発センター、東京電力横浜火力発電所
平成11	10/7	23名	日本超低温(株)、東京ガス(株)根岸工場、東京ガス(株)環境エネルギー館
平成12	未実施		
平成13	未実施		
平成14	2/13	21名	(株)エネルギーアドバンス新宿地域冷暖房センター、東京ガス(株)港北 NT ビル
平成15	3/12	18名	(株)山武 藤沢工場、神奈川県産業技術総合研究所
平成16	2/9	15名	ENEX2005「第 29 回地球環境とエネルギーの調和展」(東京ビックサイト)
平成17	7/14	23名	ライオン(株)千葉工場、(株)原本家
平成18	9/6	23名	水源林 (津久井町青根)、シチズンセイミツ(株)

○魚類の放流

本事業は、次代を担う子ども達の自然に対する豊かな感性を育てるとともに、河川の環境保全に対する意識啓発を図るため、市内河川にフナなどの在来種を放流したものです。事業開始当初は境川、八瀬川及び道保川の中小河川で実施していましたが、平成8年からは、より多くの子ども達が参加できるように、相模川（昭和橋下）を放流場所としました。毎年400名以上の幼稚園児が参加していただきました。



年度	放流日	園数	人数	放流場所	魚類・魚数
昭和60	12/5	2園	50名	境川、八瀬川、道保川	コイ、フナ等 2,500匹
昭和61	11/18	2園	160名	境川(高橋)、八瀬川(無量光寺下)、道保川(泉橋)	コイ、フナ等 4,000匹
昭和62	3/9、10	3園	212名	境川(二国橋)、八瀬川(無量光寺下)、道保川(東沢親水広場)	ハヤ、フナ、ドジョウ等 2,000匹
昭和63	3/6、7	3園	300名	境川(二国橋)、八瀬川(無量光寺下)、道保川(東沢親水広場)	ハヤ、メダカ、ドジョウ等 2,000匹
平成元	3/7	5園	400名	境川(二国橋)、八瀬川(無量光寺下)、道保川(東沢親水広場)	ウグイ、フナ、ドジョウ等 3,000匹
平成2	3/12	2園	200名	道保川(東沢親水広場)	ウグイ、フナ、ドジョウ等 2,000匹
平成3	3/4	7園	500名	境川(二国橋)、八瀬川(無量光寺下)、道保川(東沢親水広場)	ウグイ、フナ、ドジョウ、タナゴ等 2,000匹
平成4	3/4	4園	350名	境川(二国橋)、道保川(東沢親水広場)	ウグイ、フナ、ドジョウ等 3,000匹
平成5	3/6	5園	400名	八瀬川(無量光寺下)、道保川(東沢親水広場)	ウグイ、フナ、ドジョウ等 3,000匹
平成6	3/6	5園	400名	道保川(東沢親水広場)、八瀬川(無量光寺下)	コイ、フナ、ウグイ、ドジョウ等 3,000匹
平成7	3/4	4園	350名	八瀬川(無量光寺下)、道保川(東沢親水広場)	ウグイ、フナ、ドジョウ等 3,000匹
平成8	3/5	3園	230名	相模川(昭和橋下)、八瀬川(無量光寺下)	ウグイ、フナ、ドジョウ等 3,000匹
平成9	3/5	4園	380名	相模川(昭和橋下)	ウグイ、フナ、ドジョウ等 3,000匹
平成10	3/4	5園	480名		ウグイ、フナ、ドジョウ等 3,000匹

平成11	3/9	9園	526名	相模川（昭和橋下）	フナ、ドジョウ、アブラハヤ等 3,000 匹
平成12	3/6	7園	500名		フナ、ドジョウ、アブラハヤ等 3,000 匹
平成13	3/5	8園	500名		フナ、ドジョウ、アブラハヤ等 3,000 匹
平成14	3/5	6園	448名		フナ、ドジョウ、ヨシノボリ等 3,000 匹
平成15	3/5	7園	448名		フナ、ドジョウ、ヨシノボリ等 3,000 匹
平成16	3/9	7園	480名		フナ、ドジョウ、クチボソ等 5,000 匹
平成17	2/24	8園	505名		クチボソ、ドジョウ等 3,500 匹
平成18	3/6	9園	771名		ドジョウ、クチボソ等 4,000 ～ 5,000 匹
平成19	3/6	7園	525名		ドジョウ、クチボソ等 5,500 匹
平成20	3/5	5園	427名		ドジョウ、クチボソ等 4,000 ～ 5,000 匹
平成21	3/4	8園	610名		ドジョウ、クチボソ等 4,000 ～ 5,000 匹

○自然観察ウォッチング 草花観察会

昭和63年から「身近な自然」を考えていこうという趣旨のもと市内に生育する植物を知り、さらに自然観察への関心を高めるための観察学習を、こもれびの森、道保川公園、相模川自然の村、相模原麻溝公園、相模原公園などでおおむね年1～2回、実施しています。



本事業は市民を対象にした活動であり、毎年20名程度市民が参加されています。専門家の解説のもと、様々な植物を観察してきました。近年ではカメラを通してより深く対象を観察し、自然を見る目を養ってもらうために、写真教室も兼ねた観察会の形式としています。

年度	放流日	人数	場 所	講 師
昭和63	10/ 2	45名	相武台公民館、相模緑道緑地	渡辺則利 氏 (相模原自然の会)
平成元	6/ 4	36名	淵野辺公園、相模緑道緑地	渡辺則利 氏、望月千代子 氏 (相模原自然の会)
平成 2	10/14	31名	当麻山公園、無量光寺、八瀬川流域	渡辺則利 氏 (相模原自然の会)
平成 3	6/ 9	27名	木もれびの森	太田康弘 氏 (元市立博物館資料調査員)
平成 8	9/28	22名	木もれびの森	佐伯徳造 氏 (相模原山草会)
平成10	9/12	30名	相模原中央緑地	
平成11	5/22	21名		
	9/ 4	24名		
平成12	5/21	22名	道保川公園	
	9/ 9	19名	相模川自然の村公園周辺	
平成13	8/26	17名	相模原麻溝公園周辺	
平成14	6/ 1	24名	相模川自然の村公園	
平成15	9/27	15名	相模川段丘崖 (横浜水道道)	西田和子 氏 (近隣の緑地を歩いてみる会)
平成16	5/29	25名	田名望地、大島キャンプ場周辺	秋山幸也 氏 (市立博物館学芸員)
	9/11	25名	相模原麻溝公園、相模原公園	西田和子 氏 (近隣の緑地を歩いてみる会)
平成17	5/28	18名	高田橋～田名望地周辺	川崎香代 氏 (自然環境観察員)
	10/15	12名	上大島 (相模川河川敷周辺)	秋山幸也 氏 (市立博物館学芸員)
平成18	6/10	12名	津久井湖城山公園周辺	山口一郎 氏 (相模原市立田名小学校校長)
	9/30	6名	相模川自然の村周辺	西田和子 氏 (自然環境観察員)
平成19	10/ 6	5名	相模川自然の村周辺	西田和子 氏 (自然環境観察員)
	3/29	26名	城山町周辺	城山町環境保全団体
※ H19 より春の草花観察会は事業名変更 自然観察会				
平成20	10/25	26名	県立相模原公園周辺	西田和子 氏 (自然環境観察員)
	3/28	16名	城山町周辺	城山町環境保全団体
平成21	5/30	24名	市立北の丘センター、相模原北公園	安川源通 氏 (フォトグラファー) 西田和子 氏 (自然環境観察員)
	10/31	29名	県立津久井湖城山公園周辺	西田和子 氏 (自然環境観察員)
※ H21 より事業名変更 自然観察ウォッチング				
平成22	5/29	16名	藤野中央公民館及びその周辺	安川源通 氏 (NPO 里山津久井を守る会) 他

平成23	6/ 4	9名	津久井総合事務所から大沢川広場 周辺	安川源通氏 (NPO 里山津久井を守る会) 他
	11/12	9名	津久井湖城山公園花の苑地	西田和子氏 (自然環境観察員)
平成24	12/ 8	16名	相模原麻溝公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
平成25	11/30	17名	相模原公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
平成26	11/29	10名	相模原麻溝公園、県立相模原公園	
平成27	12/ 5	5名	相模原麻溝公園、県立相模原公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
平成28	12/10	10名	県立相模原公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
平成29	12/ 2	8名	相模原麻溝公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
平成30	12/ 1	5名	相模原麻溝公園、県立相模原公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
平成31 (令和元年度)	12/ 7	6名	相模原麻溝公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
令和2	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和3	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和4	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和5	10/21	15名	横山公園	高橋ぎいち氏 (写真家)
令和6	11/30	8名	相模原北公園	高橋ぎいち氏 (写真家)

野鳥観察会

本事業は、毎年1回、市内の探鳥会や野鳥の会の協力を得て実施しているものであり、自然環境への関心と環境保全に対する意識を高めてもらうことを目的としています。

初心者を対象とした野鳥観察の基礎講習会のあと、観察場所に移動して、さえずりや個体の特徴についての説明を聞きながら大小さまざまな野鳥を観察しました。野鳥観察を始めようとする多くの参加者に好評をいただいております、今後も継続していきたいと考えています。



年度	放流日	人数	場 所	講 師
平成 4	11/ 1	26名	市役所会議室、	相模原探鳥会
平成 5	1/30	30名	横浜水道相模原沈殿池	相模原探鳥会、市環境保全課
平成 6	1/29	30名	相模原麻溝公園、相模原公園、 相模原沈殿池	相模原探鳥会、市環境保全課
平成 7	1/26	30名	相模原麻溝公園、相模原公園、 こもれびの径、相模原沈殿池	相模原探鳥会
平成 8	2/ 8	30名		
平成 9	1/31	28名		
平成10	1/30	30名		
平成11	1/29	30名		
平成12	3/ 3	19名		
平成13	1/26	33名		
平成14	1/25	30名		
平成15	1/24	20名		
平成16	1/29	30名		
平成17	1/28	11名	県立相模原公園、相模原沈殿池	東林野鳥の会
平成18	1/27	13名		
平成19	1/26	31名		
平成20	雨天中止			
平成21	2/ 6	28名	県立相模原公園、相模原沈殿池	東林野鳥の会
	※ H21 より事業名変更 自然観察ウォッチング			
平成22	2/ 5	29名	県立相模原公園、相模原沈殿池	東林野鳥の会
平成23	2/ 4	23名		
平成24	2/ 2	26名	県立相模原公園周辺	
平成25	1/26	37名	県立相模原公園、相模原沈殿池	
平成26	1/17	25名		
平成27	1/16	14名		
平成28	-	-	-	事業なし
平成29	2/10	40名	道保川公園、陽光台公民館	麻布大学野鳥研究部
平成30	-	-	-	事業なし
平成31 (令和元年度)	2/8	32名	県立相模原公園、相模原沈殿池 他	麻布大学野鳥研究部
令和2	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和3	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和4	2/25	25名	県立相模原公園、相模原沈殿池 他	麻布大学野鳥研究部
令和5	2/23	24名		
令和6	2/22	22名	県立相模原公園、相模原沈殿池 他	麻布大学野鳥研究部

○カワラノギクと河原の植物観察会

絶滅の危機に瀕している野生の菊・カワラノギクの保全活動の現場を見学することで、動植物の保全に理解を持ってもらおうと、平成25年度から始めた事業です。関東地方でも相模川の他には多摩川、鬼怒川にしか自生していない貴重な本市の財産を、秋の陽光の下、市民とともに観察しました。



年度	開催日	参加者	場 所 ・ 内 容	講 師
平成25	11/4	7名	昭和橋スポーツ広場近く、 愛川町六倉グラウンド近く	桂川・相模川流域協議会さがみ地域協議会、 光明学園相模原高等学校理科研究部
平成26	11/3	6名		
平成27	11/7	10名	相模川河川敷	光明学園相模原高等学校、 桂川・相模川流域協議会
平成28	11/13	5名	相模川河川敷	光明学園相模原高等学校生物部、 桂川・相模川流域協議会
平成29	11/11	10名	相模川河川敷	光明学園相模原高等学校生物部、 桂川・相模川流域協議会
平成30	11/10	13名	「絶滅危惧種カワラノギクの観察と 相模川ふれあい科学館見学ツアー」	光明学園相模原高等学校生物部、 相模川ふれあい科学館、 アクアリウムさがみはら 他
平成31 (令和元年度)	11/16	13名	「絶滅危惧種カワラノギクの観察と 相模川ふれあい科学館見学ツアー」	光明学園相模原高等学校理科研究部、 相模川ふれあい科学館、 アクアリウムさがみはら 他

○緑化事業

平成元年度に、公共的な施設に市民が緑に親しむ環境をつくろうと始まった緑化事業ではJR相模線の駅に草花を設置してきました。地球環境保全の上からも緑を増やす努力が益々必要となっています。



年度	場所 (JR 駅)	内容
平成元	橋本	ゴールドクレスト 20 鉢を設置
平成 2	橋本、矢部、淵野辺、古淵	ゴールドクレスト 10 鉢、アイビー 22 鉢を設置
平成 3	橋本、淵野辺、古淵、原当麻	アイビー 22 鉢を設置
平成 4	橋本、矢部、相模原、南橋本、番田	アイビー 22 鉢を設置 「全国都市緑化フェア グリーンウェーブ相模原'92」 協賛事業として2日間設置
平成 5 ~6	橋本、相模原、淵野辺、古淵、原当麻	ヨーロッパゴールド、ブルーバード、カクレミノ、 グリーンコーン、マキ、ゴールドクレスト、アイビー 計 40 鉢を設置
平成 7	相模原、橋本、原当麻、南橋本、番田	グリーンコーン、カクレミノ等の植木鉢の設置、植 木の設置状況の調査、傷んだものの交換を行った。
平成 8 ~13	南橋本、上溝、番田、原当麻、下溝、 相武台下	グリーンコーン等の植木鉢の設置、手入れ等を行 った。
平成14	南橋本、上溝、番田、下溝、相武台下	植木を撤去
平成15 ~17	南橋本、上溝、番田、原当麻、下溝、 相武台下	6月の環境月間中、草花のプランターに環境月間標 語を掲示して設置

○その他の事業活動

・清流をとりもどそうマイタウン作戦 (昭和61年)

生活雑排水による河川汚濁が顕在化してきたことから、発生源である生活の中から考えてもらおうと、市民、会員を対象に2日間のプログラムで行いました。

回	実施日	人数	内 容
第1回	10/2	30名	1. 「市内の中小河川と水質汚濁の現状」 講師：市環境保全課 2. 「川と生活のかかわり」 スライド「生活雑排水対策」の上映 講師：平野浩二氏 (県公害センター湘南支所) 3. 施設めぐり 県淡水魚増殖試験場、八瀬川浄化施設
第2回	11/28	27名	1. 「隅田川を歩いて」 講師：笹子正己氏 (株田村電機製作所) 2. 「川が息づく街～都市河川と人々」 講師：吉村伸一氏 (よこはまかわを考える会)

・環境教室－記録映画「柳川堀割物語」上映会（昭和62年）

11月27日、成人向けの「環境教室」事業の一環として、市民と行政が一体となって水路の浄化に取り組んだ街、福岡県柳川市の記録映画の上映会を実施しました。市民、会員ら155名の参加がありました。

・森づくり体験教室（平成20年）

津久井町串川地区で街づくりの活動をされている皆様のご協力を得て森づくり体験教室を実施しました。参加者は地元の方のお話を聞きながらの山歩き・森林の伐採体験を通して、自然の大切さを実感しました。

調査活動のあゆみ

河川生物相調査

環境保全意識アンケート調査

夏休み環境教室

ホテルの保護育成

ホテル教室

スターウォッチング

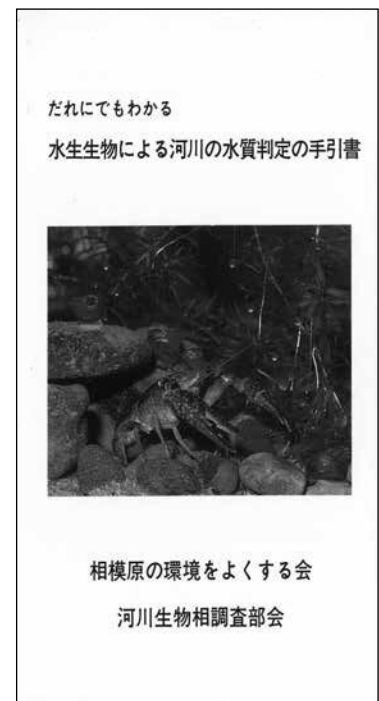
その他の調査活動

○河川生物相調査

この調査は、当会の前身である「相模原の河川をきれいにする会」の河川浄化活動の一環として、昭和51年から開始したもので、当初、境川5地点で調査を行っていましたが、以後調査地点の変遷等を行いながら調査が進められ、平成元年から令和6年までは5月と10月の年2回、市内6河川8地点で実施していました。現在は、河川の水質状況が改善されていること等に鑑み、事業の見直しを行い、毎年1回、市内1河川1地点を選定し調査することとしています。

調査方法は、当会の生物相調査部会が編集した「水生生物による河川の水質判定の手引書」（相模原の環境をよくする会発行 平成6年3月）に拠っています。これは、河川の汚濁の進行に応じて水生生物の生息範囲が限られてくることを利用した生物学的な水質調査です。

相模原市内の河川に生息する水生生物のいくつかを指標生物として設定し、この生物の生息の有無、採取量によってその場所の水質を階級区分し、水質の汚染度を測るものです。調査する指標生物は、川に生息する生物のうち、比較的移動性の少ない底生動物、サワガニ、トビケラ、ヒル、イトミミズなどの28種類の生物



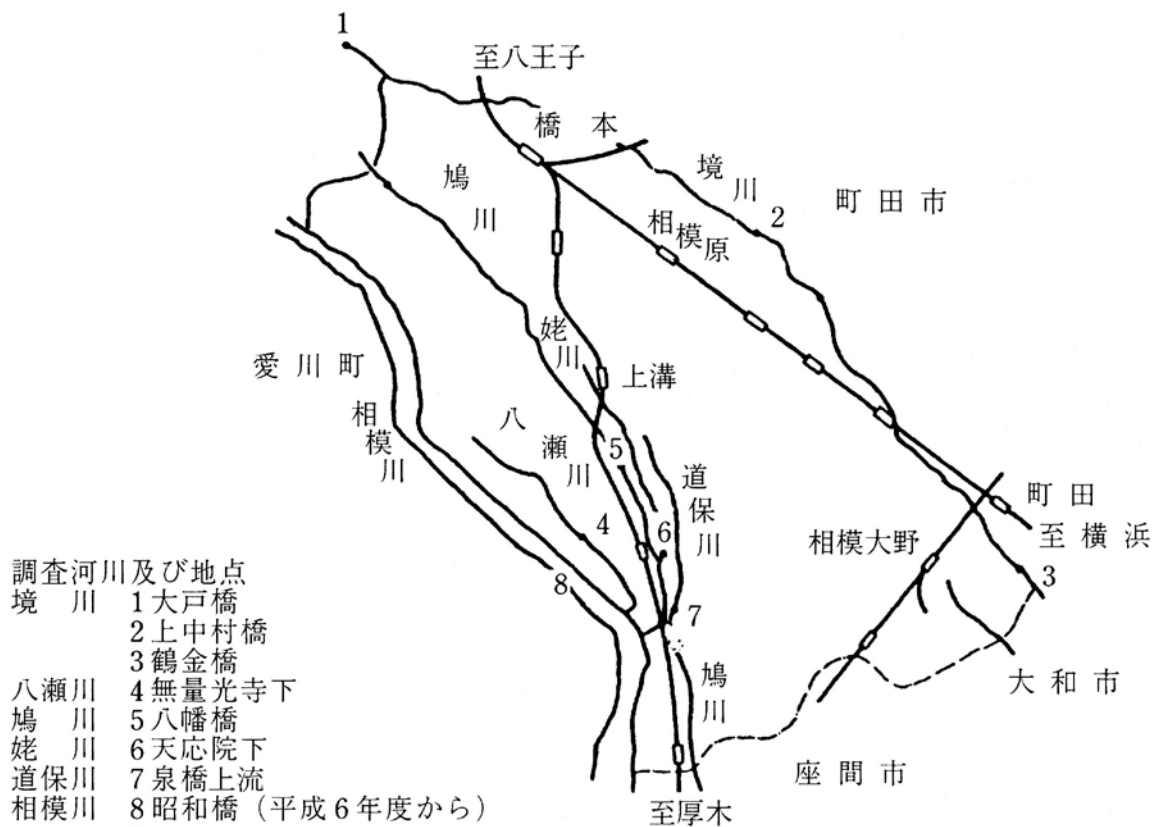
です。

本調査結果は、平成26年度まで、環境省と国土交通省が共同で昭和59年より実施している「全国水生生物調査」に提供しており、全国の学校・市民団体等とともに、地域の自然環境の変遷を見守る役割を果たしていました。事業見直しに伴い、令和7年度から本報告を再開しています。

・河川生物相調査地点の概要

本市を流れる河川については、境川が市の北部から南東部にかけて、相模川が北西部から南西部にかけてそれぞれ流れており、姥川と道保川は鳩川に、鳩川と八瀬川は相模川にそれぞれ流入しています。

本会は、これまでこれら6河川8地点（境川3地点、姥川、八瀬川、鳩川、道保川、相模川に各1地点）に定点を設けています。以下に、調査地点の概略図を示します。



・河川生物相調査による水質判定結果

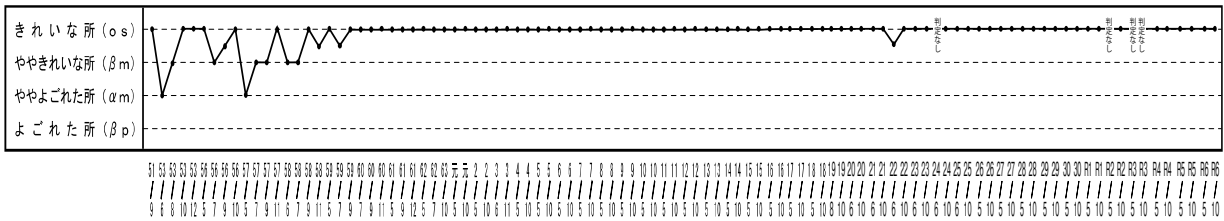
調査により判定された水質の階級は「きれいな所 (os)」「ややきれいな所 (βm)」「ややよごれた所 ($a m$)」「よごれた所 (βp)」の4段階で区分しています。

次ページに調査開始当初から令和6年度までの水質判定結果を経年変化で示します。

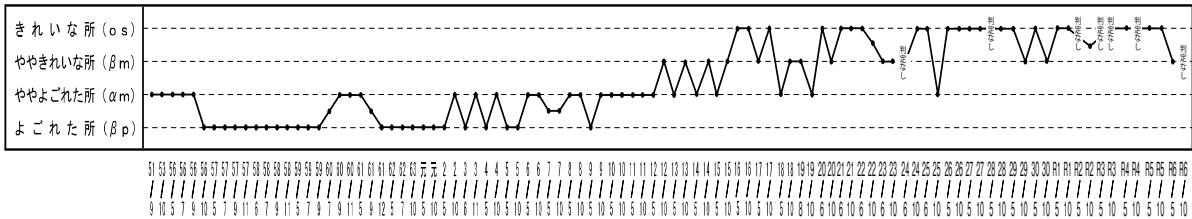
調査開始当時は、家庭排水などによる汚染がひどかった境川（上中村橋・鶴金橋）も、近年の環境保全意識の高まりや、公共下水道の普及による水質改善の効果もあってか改善し、その後は横ばいで推移していることが分かります。

河川生物相調査水質判定経年変化

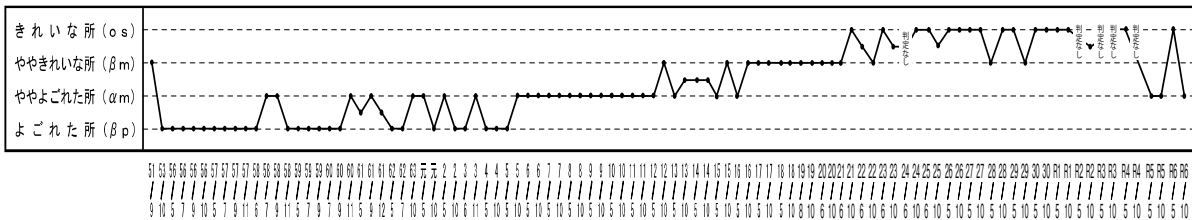
大戸橋（境川）



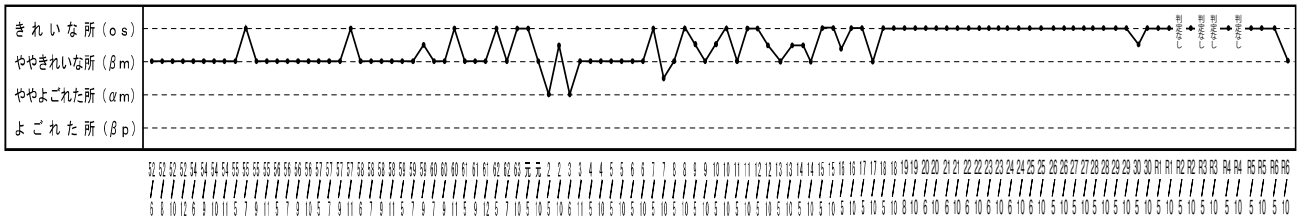
上中村橋（境川）



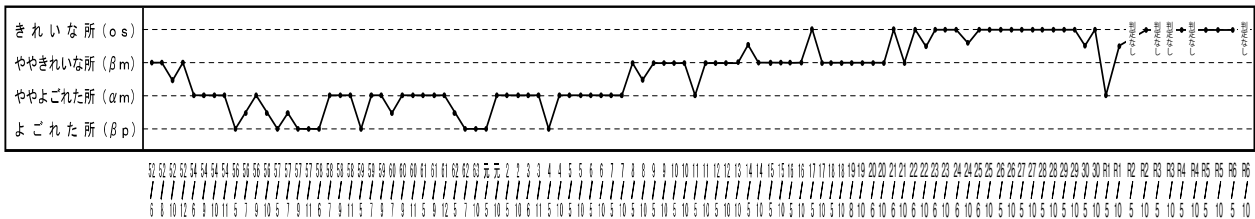
鶴金橋（境川）



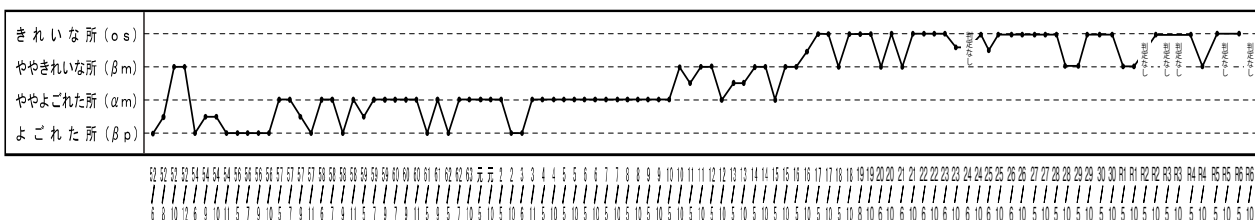
無量光寺下（八瀬川）



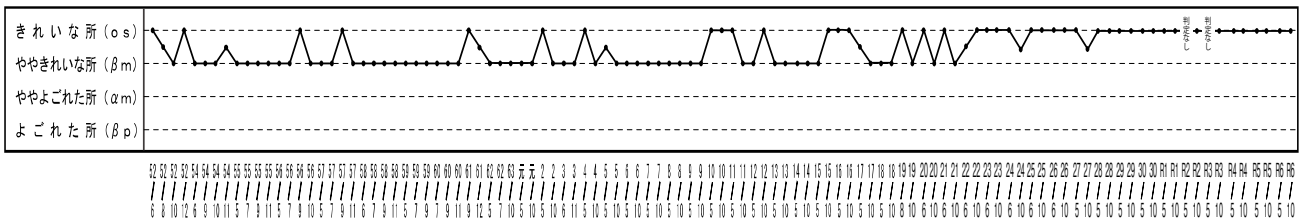
八幡橋（鳩川）



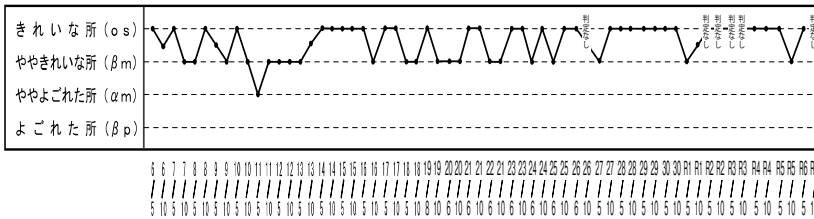
天応院下（姥川）



泉橋上流(道保川)



昭和橋(相模川)



○環境保全意識アンケート調査

本会では、その前身である「相模原の青空を守る会」が発足して3年目の昭和55年から平成23年まで、市内中学校1年生を対象とした公害意識アンケート調査を32年間にわたり、実施してきました。

環境問題は、大気汚染、水質汚濁などの公害問題から、より広域的な地球環境問題まで、多岐にわたるため、時流に沿った内容のアンケート調査を実施し、平成18年度からは結果について麻布大学 生命・環境科学部岡本教授に分析していただいていたいました。

○夏休み環境教室

この教室は、子ども達が自ら河川に生息する生物を調べ、触れ合うことで、河川の汚れ具合を認識し、自然愛護や水質保全がいかに大切であるかを知ってもらうことを目的に、昭和62年からこの名称を使用し、市内の子ども達とともに、河川を大切にするための勉強会として、各公民館及び相模川ふれあい科学館のご協力を得て平成20年まで開催してきました。



津久井4町との合併を機に、新市の市民が一体となる事業を望む機運が高まったことから、平成21年度から令和6年度まで、中道志川トラスト協会との共催で青野原オートキャンプ場において実施し、当会の事業の中でも人気のある事業のひとつとなっています。

年度	実施日	人数	場 所	講 師
昭和60	6/ 9	25名	市民会館、境川（大戸橋、二国橋）	講義、映画鑑賞、体験調査、魚類の放流 ※「親と子の環境教室」として実施した。 ※市の環境週間事業の一環として初めて委託を受けた。
	8/9、27	100名	中央公民館、大野北公民館、境川（大戸橋、二国橋）	講義、映画鑑賞、体験調査、コイの放流 ※「子ども自然環境教室」として実施した。 ※県委託「水質保全思想普及のためのリーダー養成」事業として実施。
昭和61	8/20	27名	大野中公民館、相模川（昭和橋）	講義、映画鑑賞、体験調査、魚類の放流 ※「フィールドウォッチング」として実施した。
	8/29	19名	清新公民館、境川（大戸橋）	
昭和62	8/25	22名	大野南公民館、相模川（昭和橋）	講義、映画鑑賞、体験調査
	8/28	18名	光が丘公民館、相模川（昭和橋）	
昭和63	8/24	42名	相模川ふれあい科学館、相模川（高田橋）	講義、映画鑑賞、体験調査、魚類の放流
平成元	8/ 2	31名	相模川ふれあい科学館、相模川烏山用水路	講義、体験調査、魚類の放流
	8/ 3	55名		
平成 2	8/ 8	18名		
平成 3	8/ 2	32名	相模川ふれあい科学館、相模川（高田橋）	講義、体験調査
平成 4	8/ 4	27名	相模川ふれあい科学館	講義、映画鑑賞等 (体験調査は雨天中止)
平成 5	7/29	30名	相模川ふれあい科学館、相模川（高田橋）	講義、体験調査
平成 6	8/19	25名	上溝公民館、相模川ふれあい科学館、姥川（第1橋）、相模川（高田橋）	講義、体験調査
平成 7	8/22	39名	上鶴間公民館、相模川ふれあい科学館、境川、相模川	講義、体験調査 講師：大谷喜一郎氏（県内広域水道企業団水質試験所）
平成 8	8/22	34名	清新公民館、相模川ふれあい科学館、姥川（堰の神橋）、相模川（高田橋）	
平成 9	8/19	23名	大野南公民館、相模川ふれあい科学館	
平成10	8/18	52名	橋本公民館、相模川ふれあい科学館、境川（寿橋）、相模川（高田橋）	講義、体験調査 講師：建部 修氏（県内広域水道企業団水質試験所）

平成11	8/17	55名	産業会館、相模川ふれあい科学館、境川（寿橋）、八瀬川（無量光寺下）	講義、体験調査 講師：岡村朗夫氏（県内広域水道企業団水質試験所） ※こどもエコクラブを対象に実施
平成12	8/22	19名	産業会館、相模川ふれあい科学館、境川（寿橋）、相模川（高田橋）	講義、体験調査 講師：岡村朗夫氏（県内広域水道企業団水質試験所）
平成13	8/30	16名	上溝公民館、相模川ふれあい科学館、境川（寿橋）、相模川（高田橋）	
平成14	8/27	18名	清新公民館、相模川ふれあい科学館、境川（寿橋）、相模川（高田橋）	
平成15	雨天中止			
平成16	8/20	32名	市民会館、相模川ふれあい科学館、境川（寿橋）、相模川（高田橋）	講義、体験調査 講師：岡村朗夫氏（県内広域水道企業団水質試験所）
平成17	8/23	24名	境川、相模川、 県水産技術センター内水面試験場	講義、体験調査 講師：小林義博氏 （自然環境観察員）
平成18	8/ 3	17名	相模川周辺	講義、体験調査
平成19	雨天中止			
平成20	8/19	5名	県立津久井湖城山公園	講義、自然観察、写真教室 講師：安川源通氏 （フォトグラファー）
平成21	8/ 8	27名	青野原オートキャンプ場	講義、魚のつかみ取り、河川の生物調査、竹工作 講師：中道志川トラスト協会員、 河川生物研究クラブ他
平成22	7/31	33名		
平成23	7/30	30名		
平成24	7/28	28名		
平成25	7/27	31名		
平成26	7/27	25名		
平成27	7/26	30名		
平成28	7/31	33名		
平成29	7/30	31名		
平成30	7/29	29名		
平成31 令和元年	7/28	31名		
令和2	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和3	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和4	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施せず	
令和5	7/29	26名	青野原オートキャンプ場	講義、河川の生物調査、魚のつかみ取り、竹工作 講師：中道志川トラスト協会員他
令和6	7/27	33名		

○ホタルの保護育成

都市河川の汚濁が進む中、全国で水質浄化のための市民運動が展開され、その中で象徴的な活動が、ホタルに関する保護育成の事業でした。本会においては、その前身である「相模原の河川をきれいにする会」が昭和55年から「ホタルの里づくり」として事業を開始しました。市内を流れる道保川は、鳩川・姥川・八瀬川とともに、市内を流れる相模川の支流の一つで、全長3.7kmの一級河川ですが、昭和52年からの河川生物相調査結果から、比較的自然環境に恵まれ、水質も良く、自然水も豊富な貴重な河川であったことが分かります。道保川は、上溝の丸崎を水源として、横山の段丘崖下の豊富な湧水を集めて南流し、下溝で鳩川に合流します。道保川の源流域である上溝の虹吹付近には湿地が広がり、水生生物も豊富で、ホタルの自然発生などもあったことから、この自然を守り、市民の憩いの場として確保するために、「ホタルの里づくり」を実施し、ホタルが生息できる河川とその自然環境保全を図ろうとするものでした。



本会の発足した昭和60年までの間に、現地調査、現地整備、ホタル幼虫の放流、餌となるカワニナの放流、ホタルの立看板設置などが行われ、昭和57年からはホタルの飼育も行われました。また、ホタルに関する知識の吸収を目指し、県のホタル保護連絡協議会へ参画しました。

その結果、昭和56年と57年にはホタルの乱舞が観察されるなど、一定の成果をあげてきましたが、昭和58年からは里の水源が極端に減少してホタルが消滅するなど、定着するには継続して事業に取り組む必要があるとの認識から、本会発足後も、事業の目玉として取り組んできました。平成2年に、この源流付近の湿地が道保川公園として整備され、事業の取り組みの成果もあってか、現在でもホタルが観賞できる環境は保たれています。

年度	主なホタル保護育成事業
～昭和59	現地調査、現地整備、ホタル幼虫の放流、エサとなるカワニナの放流、ホタル保護の立看板設置、ホタルの飼育、県のホタル保護連絡協議会への参画 など
昭和60	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの里・七曲り下の整備（水路の整備、外の補修等） ・カワニナの放流、事務局で飼育したホタル幼虫の放流（3月）
昭和61	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの里・当麻山公園の整備（水路の整備、外の補修等）、立看板の設置 ・城山町根小屋、山本基一宅ホタル養殖池視察 ・ホタル幼虫の放流（4月：当麻山公園、ホタル 100匹、カワニナ 1,000匹 3月：当麻山公園、ホタル1,000匹、カワニナ10,000匹） ※放流した幼虫は、神奈川県内広域水道企業団相模原浄水場の協力で飼育した。
昭和62	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に放流した当麻山公園のホタルが成長したため、ミニ鑑賞会を開催（約70名参加） ・ホタル生息調査（後年このデータをもとにホタルマップを作成） ・ホタル幼虫の放流（3月、当麻山公園、終齢幼虫数十匹） ・ホタル飼育の実施（事務局、浄水場とも生育不良）

昭和63	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルパンフレットの作成 ・会員会社のカルピス食品工業(株)で浄化排水によるカワニナの飼育を開始 ・ホタル幼虫の放流（3月、東沢・当麻山公園、100匹） ・東沢、当麻山公園、浄水場にホタル保護啓発用看板を設置
平成元	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル教室開始（雨天のため現地観察は中止） ・当麻地区八景の棚下にホタル保護啓発看板設置 ・ホタル保護育成先進都市視察（6月、滋賀県守山市鳩の森公園、京都市清滝、大阪府豊中市下水道工務課） ・ホタル幼虫の放流（3月、道保川公園、100匹）
平成2	<ul style="list-style-type: none"> ・道保川公園双子沢、八瀬川支流の当麻天満宮付近にホタル保護啓発看板設置 ・ホタル保護育成事業先進都市視察（山梨県昭和町教育委員会、韮崎市中田町小田川ホタル愛護会、多摩動物公園） ・ホタル幼虫の放流（3月、道保川公園・東沢、600匹）
平成3	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護啓発用うちわの作成（6月、ホタル教室にて配布） ・ホタル保護育成先進都市視察（横須賀市博物館、同市岩戸川） ・田名望地弁天にホタル保護啓発看板の設置 ・ホタル幼虫、カワニナの放流（12月、道保川公園、ホタル1,000匹、カワニナ約500匹）
平成4	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護育成先進都市視察（神奈川県内広域水道企業団飯泉取水管理事務所）
平成5	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護育成先進都市視察（藤沢市東部下水処理場） ・ホタル幼虫の放流（1月、道保川公園双子沢：約60匹、東沢：約400匹）
平成6	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護育成先進都市視察（八王子ホタルの里、創価大学蛍桜保存会、高尾山清滝駅付近） ・ホタル幼虫の放流（9月、道保川公園双子沢、約1,000匹）
平成7	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル幼虫の放流（12月、道保川公園こもれびの沢、約1,000匹） ・ホタルパンフレットの発行
平成8	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル幼虫の放流（3月、道保川公園、約500匹）
平成9	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護育成先進都市視察（町田市大蔵小学校、座間谷戸山公園、大和市泉の森） ・ホタル幼虫の放流（3月、道保川公園、約1,000匹） ※麻溝小学校児童30名が協力
平成10	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護育成先進都市視察（創価大学蛍桜保存会、多摩動物公園） ・ホタル幼虫の放流（3月、道保川公園、約1,000匹） ※麻溝小学校児童30名が協力
平成11	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護育成先進都市視察（板橋区ホタル飼育施設） ・ホタル幼虫の放流（3月、道保川公園・八瀬川（田名塩田地区）、約600匹） ※麻溝小学校児童が協力
平成12	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタル保護育成先進都市視察（県立四季の森公園） ・ホタル幼虫の放流（3月、八瀬川（田名塩田地区）、約400匹） ・道保川公園内ホタル保護啓発用看板の付け替え

○ホタル教室

ホタル教室は平成元年から平成17年まで開催してきました。参加者は毎年30人を越える申込みがあり人気の高い活動でした。用意したホタルの幼虫やカワニナを観察してから、ホタルの一生をまとめたビデオ観賞とホタルの種類や生態の講義を受けた後に、生息場所（八景の棚下や道保川公園）へ出かけて観賞会を実施しました。ホタルが生息する環境には、ホタルの幼虫がすみ、ホタルの幼虫の餌となる巻貝のカワニナが生息できる清流、サナギになるための土、成虫になったホタルが光り信号をだすための暗闇、オスとメスが出会うための水辺の木や草、そして産卵場所となるミズゴケなど、ゆたかな自然条件が欠かせないことを学びました。参加者は、夕暮れが暗くなり、やがて公園の森林空間が暗闇になり幻想的に飛び交うホタルに感嘆の声があがっていました。

年度	実施日	人数	場 所	講 師	
平成元	6/24	64名	麻溝公民館（観察会は雨天中止）	荒井和之氏 (県内広域水道企業団相模原浄水場)	
平成2	6/14	106名	麻溝公民館、八景の棚下		
平成3	6/8	99名			
平成4	6/12	58名	中央公民館、道保川公園		
	6/13	65名	大沼公民館、道保川公園		
平成5	6/11	58名	中央公民館、道保川公園		
	6/12	105名	大沼公民館、道保川公園		
平成6	6/17	54名	市役所、道保川公園		
	6/18	80名	大沼公民館、道保川公園		
平成7	6/15	43名	市役所、道保川公園		
	6/16	71名	大沼公民館（観察会は雨天中止）		
平成8	6/13	36名	市役所、道保川公園		
	6/14	60名	大沼公民館、道保川公園		
平成9	6/17	32名	市役所、道保川公園		田野倉肇氏 (カルピス(株)相模工場)
	6/18	29名	橋本公民館、道保川公園		
平成10	6/16	40名	市役所、道保川公園		
	6/17	40名	大野南公民館、道保川公園		
平成11	6/15	35名	産業会館、道保川公園		
	6/16	38名	清新公民館、道保川公園		
平成12	6/13	24名	星が丘公民館（観察会は雨天中止）		
	6/14	38名	東林公民館、道保川公園		
平成13	6/12	31名	市民会館、道保川公園		
平成14	6/11	21名	総合学習センター、道保川公園		
平成15	6/18	28名			
平成16	6/8	25名			
平成17	6/7	32名			

○スターウォッチング

スターウォッチングは環境省の「全国星空継続観察」に対応しており「光害や大気汚染などのない清澄な大気への関心を高めてもらうこと」を目的としてきました。本会は平成2年から参加し、市民を交えて年2回の観察会を実施しました。悪天候のため、星を観察することができず、プラネタリウムの見学のみとなった年もありましたが、多くの市民の参加を得て環境に対する関心の高まりを感じることができました。都心に近い相模原では、光害への配慮がますます重要になっています。



年度	実施日		人数	場 所	備 考
平成 2	夏	8/20	18名	県立相模原公園	
	冬	1/17	13名	峰山霊園	
平成 3	夏	8/ 9	7名		
	冬	-	-	-	天候不良により中止
平成 4	夏	7/31	29名	市役所	※初めて市民参加を得て実施
	冬	1/20	22名		
平成 5	夏	-	-	-	天候不良により中止
	冬	2/10	30名	市役所	
平成 6	夏	8/ 3	28名		
	冬	1/20	30名		
平成 7	夏	8/29	-		
	冬	-	-	-	天候不良により中止
平成 8	夏	8/ 6	30名	市立博物館	天候不良により講義のみ実施
	冬	2/ 4	22名		
平成 9	夏	-	-	-	天候不良により中止
	冬	-	-	-	
平成10	夏	8/21	38名	市立博物館	天候不良により講義のみ実施
	冬	1/ 8	12名		
平成11	夏	8/ 6	27名		
	冬	2/ 4	28名		
平成12	夏	-	-	-	天候不良により中止
	冬	1/29	7名	市立博物館	天候不良により講義のみ実施
平成13	夏	-	-	-	天候不良により中止
	冬	1/11	19名	市立博物館	
平成14	夏	8/ 9	36名		
	冬	1/31	12名		

平成15	夏	-	-	-	天候不良により中止	
	冬	1/16	21名	市立博物館		
平成16	夏	8/ 6	36名		天候不良により講義のみ実施	
	冬	1/14	31名			
平成17	夏	8/ 5	36名			
	冬	1/27	14名		天候不良により講義のみ実施	
平成18	夏	8/25	-		-	曇天のため中止
	冬	1/12	27名		市立博物館	
平成19	夏	8/10	40名			
	冬	2/ 1	34名			
平成20	夏	8/ 1	40名			
	冬	1/16	34名			
平成21	夏	8/21	40名	天候不良により講義のみ実施		
	冬	1/15	13名			
平成22	夏	7/27	40名			
	冬	1/28	17名			
平成23	夏	7/23	21名	天候不良により講義のみ実施		
	冬	1/21	6名	天候不良により講義のみ実施		
平成24	夏	7/21	6名	天候不良により講義のみ実施		
	冬	1/26	15名			

○その他の調査活動

・大気汚染調査

大気汚染調査は、本会の前身である「相模原の青空を守る会」が設立され、大気汚染のモニタリングを通じて、会員に対する環境保全意識の啓発を目指すため、昭和53年に大気環境観察を開始したのが始まりで、本会の発足した昭和60年以降は、ガスパック法によるNOx測定や降下ばいじん測定など、4回の調査を実施しました。

・身近な生き物調査

この調査は、環境省の主催で、生きものの分布状況を全国的に調査することで、身近な自然を見つめ直すきっかけとするために実施しているもので、本会でも市民に広く調査員を募集して参加しました。

年度	実施時期	参加者数 (会員・市民)	テ ー マ
平成 2	12 月	20 名	－
平成 7	6～9 月	20 名	セミの分布状況調査
平成 8	10～11 月	17 名	ひつつきむし
平成 9	5～8 月	23 名	ツバメの巣
平成11	秋冬編	7 名	身近な林 (ドングリと赤い実)
平成13	春夏編	7 名	身近な林 (タンポポとセミの抜け殻)

創立40周年 記念特集

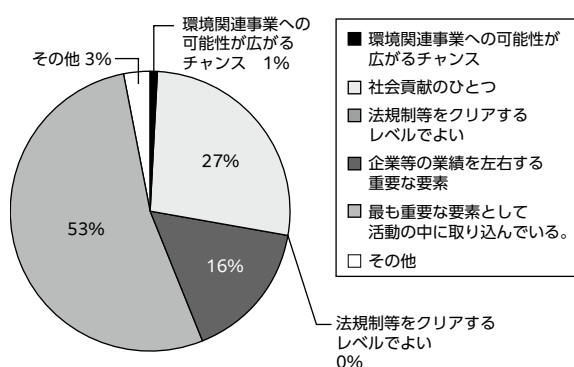
会員の環境保全意識や
取組の変化について

会員の環境に関する意識や取組の変化について

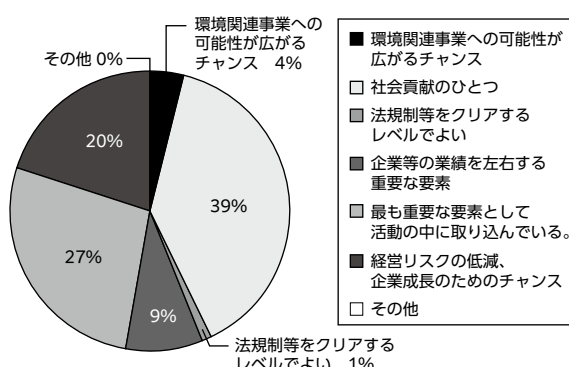
会の創立40周年を機に、20周年時からの会員の環境に関する意識や取組の変化を把握するために、会員アンケート調査を実施しました。この調査は本会の全会員を対象に実施し、99会員中49会員にご回答いただきました。（回答率49.5%）なお、20周年時は127会員中67会員にご回答いただきました。（回答率52.8%）

問1 企業・団体として環境への取り組みのあり方について、最も近いものを1つ選んでください。

20周年



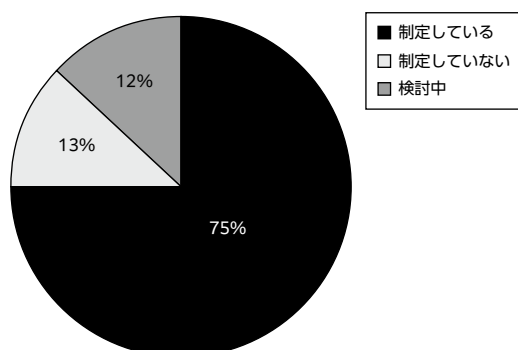
40周年



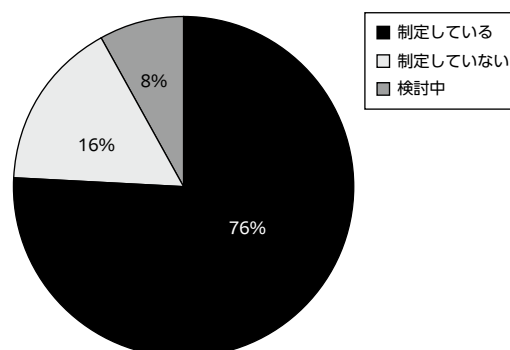
20周年時に比べ、「最も重要な要素として活動の中に取り込んでいる」の割合が減り、「社会貢献の一つ」と考える割合が増加しました。また、新しく追加した「経営リスクの低減や企業成長のチャンス」と回答する会員がいました。

問2 環境に関する方針を制定していますか。

20周年



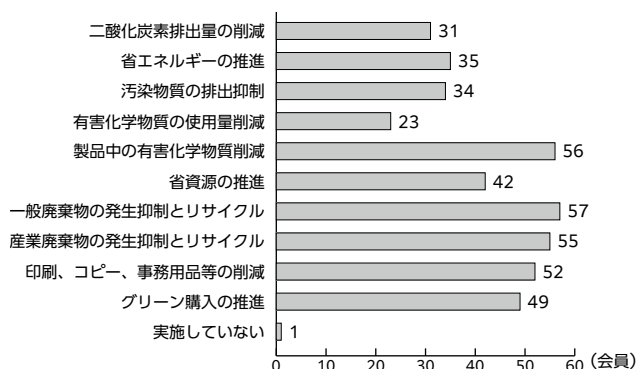
40周年



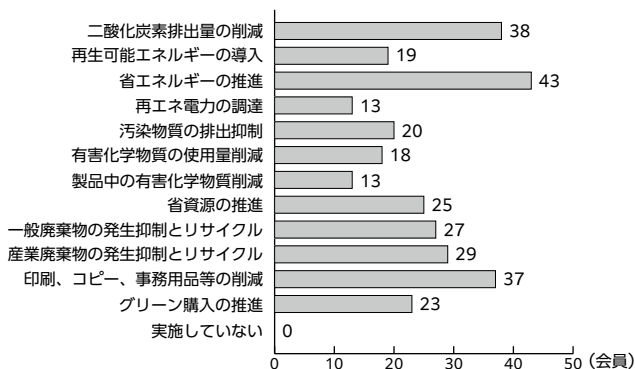
20周年時と今回で環境に関する方針の制定状況の割合には大きな変化は見られませんでした。

問3 環境に関してどのような取り組みを実施していますか。(複数選択可)

20周年



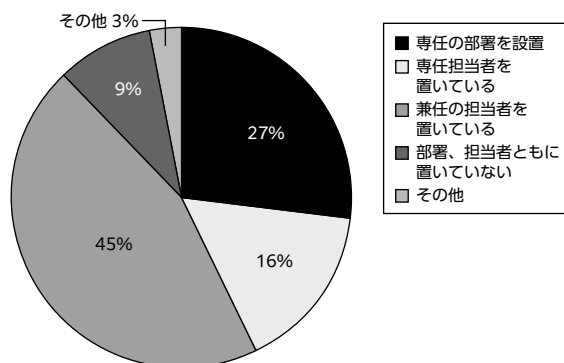
40周年



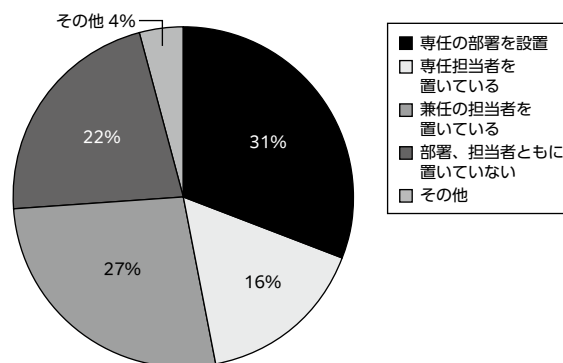
20周年時は「一般廃棄物の発生抑制とリサイクル」、「産業廃棄物の発生抑制とリサイクル」、「製品中の有害物質の削減」に取り組んでいる会員が多かったですが、今回は「省エネルギーの推進」、「二酸化炭素排出量の削減」、「事務用品等の削減」に取り組んでいる会員が多い結果となりました。

問4 環境問題に取り組むための部署または担当者を置いていますか。

20周年



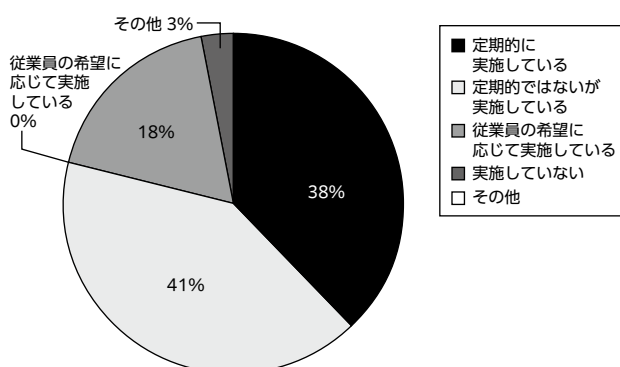
40周年



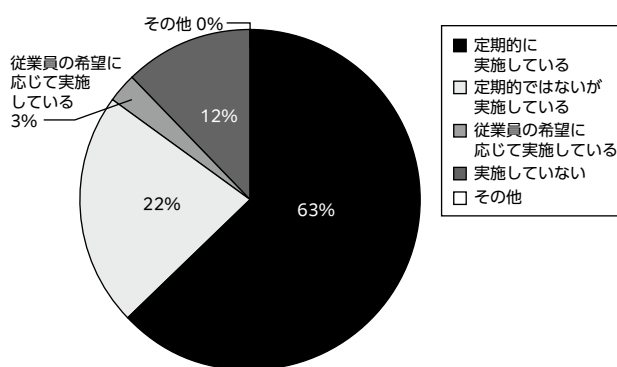
「兼任の担当者を置いている」の割合が減り、「部署、担当者ともに置いていない」の割合が増加しています。

問5 従業員等に対して、どのような頻度で環境教育を行っていますか。

20周年



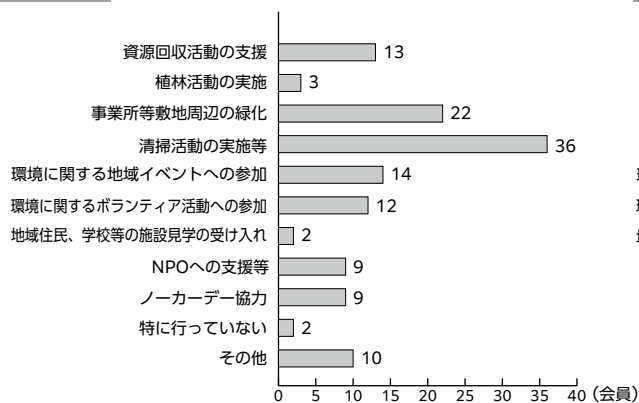
40周年



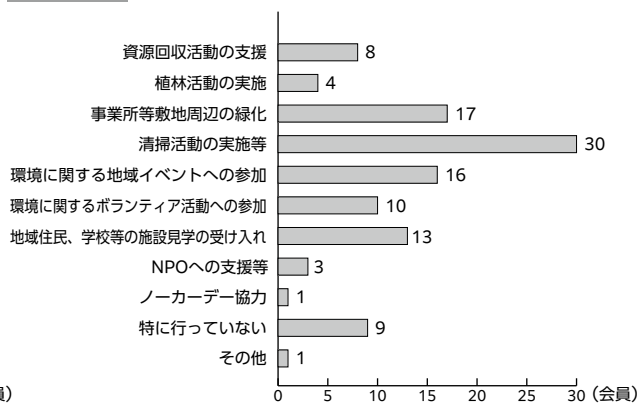
「環境教育を定期的ではないが実施している」の割合が減少し、その分、「環境教育を定期的実施している」の割合が増えました。なお、「環境教育を定期的実施している」、「定期的ではないが実施している」の割合を足した割合は微増となっています。

問6 地域社会の一員として、事業所等の周辺地域において、環境に関する社会貢献活動を行っていますか。(本会の事業は除く)(複数選択可)

20周年



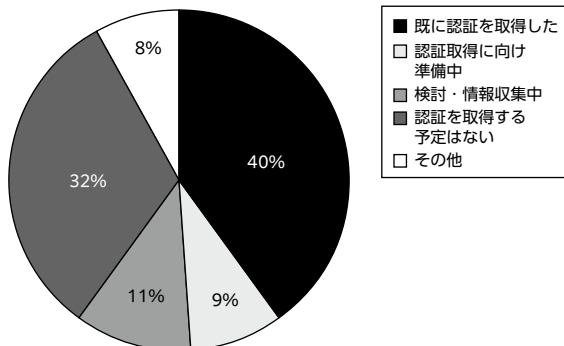
40周年



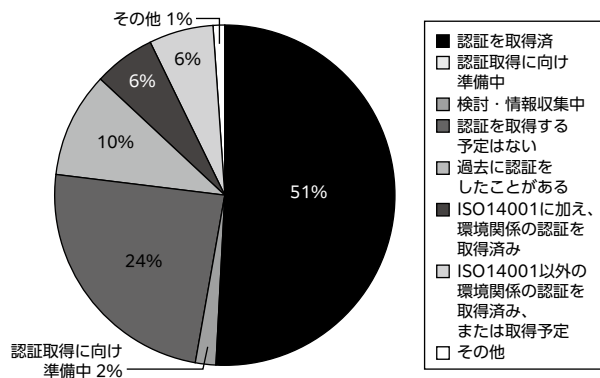
今回も「清掃活動の実施等に取り組んでいる」会員が最も多い結果となりました。「特に行ってない」会員が減少しており、「地域住民等の施設見学の受け入れを行っている」会員が増えています。

問7 環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001規格」の認証について、どのようにされていますか。

20周年



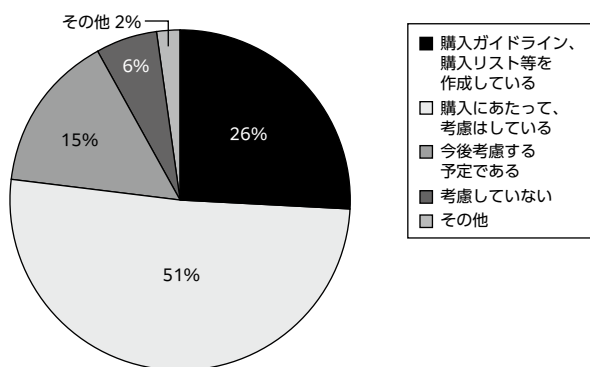
40周年



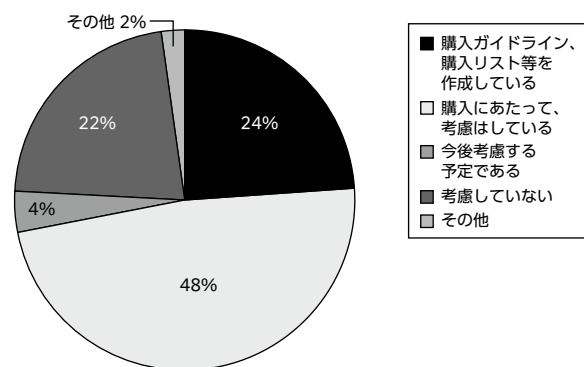
「認証取得に向け準備中」の割合が減り、「認証を所得済み」の割合が増えました。また、ISO14001だけでなく、別の認証（エコアクション21等）を取得している会員もおり、環境関係の認証を取得している割合が増えています。

問8 原材料等の選定、物品・サービスの購入に当たって、グリーン購入を実施していますか。

20周年



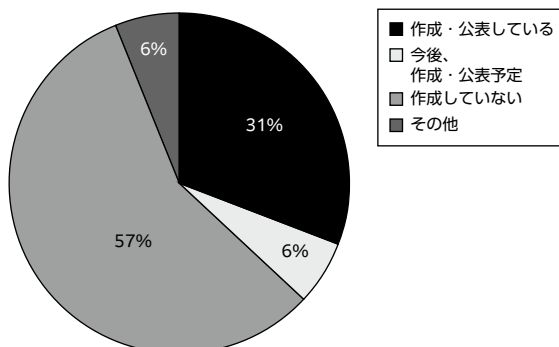
40周年



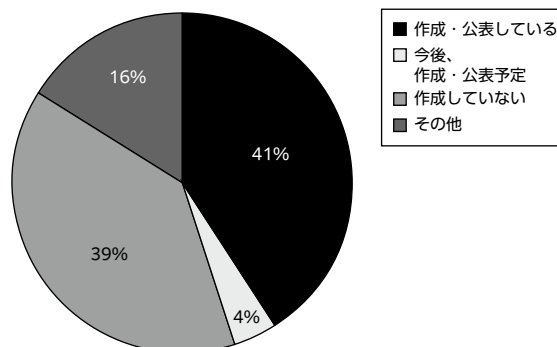
「購入ガイドライン、購入リスト等を作成している」、「購入に当たって考慮している」の割合にあまり変化はありませんでした。一方で、「考慮していない」の割合が増えています。

問9 環境報告書を作成・公表していますか。

20周年



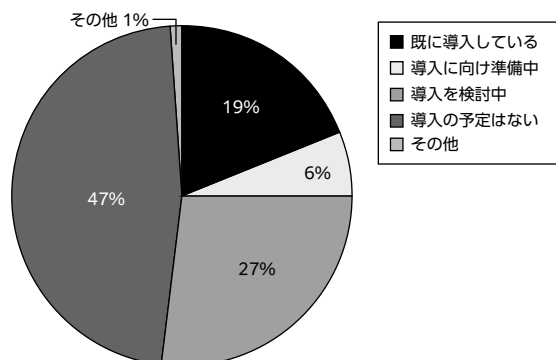
40周年



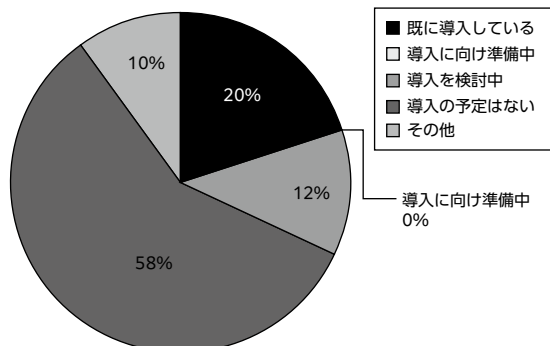
20周年時に比べ、「作成・公表している」の割合が増えました。

問10 環境会計を導入していますか

20周年



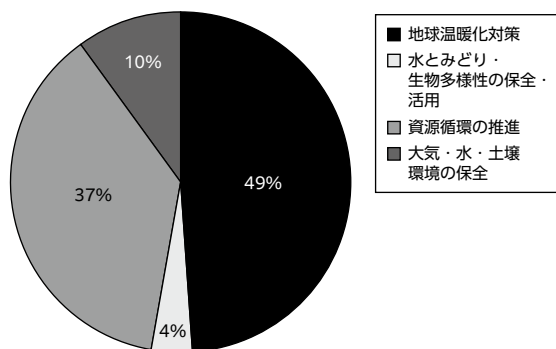
40周年



「導入の予定はない」の割合が増加し、準備中の会員はゼロになりました。

問11 環境関係の取り組みとして、今後どのようなことに最も力を入れていきたいですか。

40周年



この設問は今回新たに追加したものです。

最も多かったのは、「地球温暖化対策」であり、次いで「資源循環の推進」となりました。今後、会としての取組を企画、検討するにあたり、参考にしていきます。

まとめ

環境への取組を「社会貢献の一つ」と考える会員が増えました。また、「経営リスクの低減や企業成長のチャンス」と考える会員もいました。これは、企業の社会的責任（CSR）に関する取組が大きな潮流になっていることや、気候変動対策を自社の経営上の重要課題と捉え、全社を挙げて取り組む脱炭素経営が普及し始めていることが要因と考えられます。

また、二酸化炭素排出量の削減、省エネルギーの推進など、地球温暖化対策に関係する取り組みを行っている会員が増加しました。これは、世界規模の問題である地球温暖化対策に取り組む意識や必要性が高まっていることや昨今の光熱費の高騰などが影響していると考えられます。

従業員に対し、環境教育を行っている会員が増えている一方で、担当部署・担当者を置いている会員が増えたり、環境方針を制定している会員の割合に変化がないなど、一部の内容に関しては、環境意識の向上が進んでいない側面も見受けられました。これを踏まえ、今後も会員の環境意識の向上につながる活動に取り組んでまいります。

役員名簿
会 員 名 簿

役員名簿

令和7年10月現在

役職	会社名	代表者氏名	所在地
会長	三菱重工業(株) 相模原製作所	竹内 昌夫	中央区田名3000
副会長	(株)ニコン 相模原製作所	若林 孝	南区麻溝台1-10-1
理事	アイダエンジニアリング(株)	鈴木 利彦	緑区大山町2-10
理事	(株)オハラ	齋藤 弘和	中央区小山1-15-30
理事	東京ガス(株) 神奈川西支店	中嶋 豊	南区相模大野5-8-18
理事	東京電力パワーグリッド(株) 相模原支社	牧 誠	中央区千代田6-12-25
理事	カヤバ(株) 相模工場	井関 俊道	南区麻溝台1-12-1
理事	大和製罐(株) 東京工場	松岡 進	緑区西橋本5-5-1
理事	(一財) 生物科学安全研究所	山本 実	緑区橋本台3-7-11
理事	プライムデリカ(株)	大西 慎一	南区麻溝台1-7-1
理事	東急建設(株) 技術研究所	井上 諭	中央区田名3062-1
理事	三友プラントサービス(株)	小松 源	緑区橋本台1-8-21
理事	SWCC(株) 相模原事業所	野口 一朗	中央区南橋本4-1-1
理事	スリーエムジャパンイノベーション(株) 相模原事業所	河合 貴之	中央区南橋本3-8-8
理事	東ブレ(株) 相模原事業所	井坂 守	中央区南橋本3-2-25
理事	日産自動車(株) 相模原部品センター	瓜生 巖太郎	南区麻溝台1-4-1
理事	日本板硝子(株) 相模原事業所	谷口 敏	緑区西橋本5-8-1
理事	峡の原工業団地協同組合	萩原 隆志	緑区橋本台3-4-20
監事	三菱電機(株) 鎌倉製作所 相模事務所	佐藤 清孝	中央区宮下1-1-57
監事	日本山村硝子(株) 東京工場	吉田 義美	緑区大山町3-45

会 員 名 簿

工場・事業所

令和7年10月現在

No.	会 社 名	代表者氏名	所 在 地
1	アイダエンジニアリング(株)	鈴木 利彦	緑区大山町2-10
2	(株)アクア	中村 朋宏	南区大野台2-26-10
3	井上醤油(株)	井上 久雄	緑区大島1048
4	岩谷瓦斯(株) 相模原プラント	坂井 洋三	南区麻溝台1-10-1 (ニコソ内)
5	SWCC(株) 相模原事業所	野口 一朗	中央区南橋本4-1-1
6	(株)奥村組 東京支店 橋本営業所	伊藤 淳	緑区橋本3-25-1 橋本 MN ビル1F
7	尾崎理化(株) 本社	尾崎 勲	緑区根小屋1888
8	(株)オハラ	齋藤 弘和	中央区小山1-15-30
9	オルガノ(株) 開発センター	江口 正浩	南区西大沼4-4-1
10	鹿島道路(株) 相模合材製作所	福本 憲秀	南区新戸983
11	(株)金井産業	金井 雅人	中央区田名5977
12	カヤバ(株) 相模工場	井関 俊道	南区麻溝台1-12-1
13	(株)河坂製作所	田坂 智	中央区田名3670
14	関東宇部コンクリート工業(株) 相模原工場	桃澤 岳徳	中央区宮下2-17-1
15	菊屋浦上商事(株)	浦上 裕生	中央区相模原6-26-7
16	(株)ケミックス	田中 勉	中央区田名塩田1-14-2
17	興建産業(株)	永吉 哲郎	中央区田名塩田4-19-21
18	権田金属工業(株)	権田 有紀子	中央区宮下1-1-16
19	サガミ計測(株)	蒔田 建	中央区小町通1-2-4
20	(株)相模原ゴルフクラブ	井上 直樹	南区大野台4-30-1
21	(株)サンコーシヤ 相模テクノセンター	似内 稔	中央区宮下1-1-12
22	三友プラントサービス(株)	小松 源	緑区橋本台1-8-21
23	(株)三菱商事	和田 吉隆	緑区橋本台1-14-13
24	J A全農ミートフーズ(株) 神奈川工場	深町 拓彌	中央区上溝1856
25	(株)シノテスト	塚田 聡	南区大野台5-16-41
26	(株)昭和真空	小俣 邦正	中央区田名3062-10
27	新相模酸素(株) 相模原工場	内城 保	中央区宮下2-14-3
28	ステイ電子機器(株)	志田 正秀	中央区宮下3-13-11
29	スリーエムジャパンイノベーション(株) 相模原事業所	河合 貴之	中央区南橋本3-8-8
30	スリーボンドファインケミカル(株)	土田 耕作	緑区大山町1-1
31	世紀東急工業(株) 相模原再生工場	田中 彰彦	中央区田名2500-1
32	セントラル総合サービス(株)	井上 善勝	緑区西橋本3-10-30
33	総合銘板工業(株)	田中 桂之介	中央区宮下3-11-14
34	第一コンクリート(株) 相模原工場	高橋 一	中央区南橋本4-2-27
35	大栄フーズ(株)	岡 康人	南区相武台2-5-30
36	タイヨー印刷(株)	長田 功	中央区上溝4-9-10
37	大和製罐(株) 東京工場	松岡 進	緑区西橋本5-5-1
38	竹内貴金属工業(株)	竹内 忠夫	中央区南橋本3-9-17
39	田辺プラスチック機械(株) 相模原工場	渡邊 勲	南区北里2-30-11
40	津久井湖観光(株)	田原 憲和	緑区三ヶ木492
41	東栄電化工業(株)	山本 茂樹	中央区小町通2-5-9
42	東急建設(株) 技術研究所	井上 諭	中央区田名3062-1
43	東京化学塗料(株)	藤原 賢一	中央区淵野辺1-21-23
44	東京ガス(株) 神奈川西支店	中嶋 豊	南区相模大野5-8-18

会 員 名 簿

工場・事業所

令和7年10月現在

No.	会 社 名	代表者氏名	所 在 地
45	東京電力パワーグリッド(株) 相模原支社	牧 誠	中央区千代田6-12-25
46	東京特殊印刷工業(株)	寺 岡 健 郎	南区大野台2-12-6
47	東京メタルパック(株)	藤 橋 勝 治	中央区南橋本3-2-25
48	東京ライト工業(株) 相模原工場	崎 村 孝 陽	緑区根小屋1787-1
49	東ブレ(株) 相模原事業所	井 坂 守	中央区南橋本3-2-25
50	(株)戸田ゴルフクラブ	門 坂 治 雄	緑区長竹1838
51	TOPPAN インフォメディア(株) 相模原工場	前 屋 隆 雄	南区大野台2-29-20
52	(株)ニコン 相模原製作所	若 林 孝	南区麻溝台1-10-1
53	(有)西浦塗装工業所	西 浦 佐知子	中央区淵野辺2-18-15
54	日産自動車(株) 相模原部品センター	瓜 生 巖太郎	南区麻溝台1-4-1
55	日鉄ドラム(株) 相模原工場	中 窪 淳	緑区西橋本5-7-1
56	日本板硝子(株) 相模原事業所	谷 口 敏	緑区西橋本5-8-1
57	日本化工機材(株)	大 澤 浩一郎	中央区淵野辺1-20-8
58	日本ゼットック(株) 相模原事業所	小 林 年 成	緑区大山町1-5
59	日本電子工業(株) 相模原工場	永 田 浩	中央区宮下3-10-14
60	日本トーカンパッケージ(株) 相模原工場	藤 山 秀 男	南区麻溝台1-4-50
61	日本山村硝子(株) 東京工場	吉 田 義 美	緑区大山町3-45
62	(有)早川銘板製作所	早 川 正 彦	中央区田名3039-17
63	福田道路(株) 相模原合材工場	林 宏 至	中央区田名3385-1
64	富士工業(株)	柏 村 浩 介	中央区淵野辺2-1-9
65	プライムデリカ(株)	大 西 慎 一	南区麻溝台1-7-1
66	ペンニットー(株)	長 内 康 一	中央区南橋本4-5-13
67	(株)宝月堂文具店	佐 藤 幸 一	中央区淵野辺3-19-9
68	マルマテクニカ(株) 相模原事業所	中 村 政 治	南区大野台6-2-1
69	美鈴紙業(株) 東京事務所	長谷川 和 也	緑区橋本台3-1-12
70	三菱重工業(株)	竹 内 昌 夫	中央区田名3000
71	三菱電機(株) 鎌倉製作所 相模事務所	佐 藤 清 孝	中央区宮下1-1-57
72	ミヤジフーズ(株)	宮 地 俊 二	南区古淵5-6-16
73	モリマーマテックス(株)	安 田 寿 之	緑区橋本台1-26-6
74	(株)ヤマダコーポレーション	山 田 幸太郎	中央区宮下1-2-38
75	(株)ヤマダメタルテック	石 井 正 信	緑区西橋本3-12-9
76	(株)ヤマテコーポレーション	麻 生 敬 三	中央区田名3879
77	(株)ユニックス	平 田 徹	南区麻溝台6-17-6
78	ユニリーバ・ジャパン(株) 相模原工場	宇 山 和 樹	南区大野台2-14-1
79	(株)ライト	佐々木 亮 一	中央区中央5-9-10
80	(株)リガルジョイント	小田中 奈穂美	南区大野台1-9-49
81	リバー(株)	松 岡 直 人	緑区西橋本3-10-14
82	ロンザ(株) 相模原事業所	小 林 亨	中央区南橋本4-3-36

会 員 名 簿

公共事業所等

令和7年10月現在

No.	会 社 名	代表者氏名	所 在 地
1	(学)青山学院大学 相模原キャンパス	鴨志田 壽 生	中央区淵野辺5-10-1
2	(学)麻布獣医学園	山 口 雄 弘	中央区淵野辺1-17-71
3	(学)和泉短期大学	須 田 拓	中央区青葉2-2-1
4	神奈川県水産技術センター内水面試験場	小 川 砂 郎	緑区大島3657
5	(一財)北里環境科学センター	山 田 陽 城	南区北里1-15-1
6	(学)北里研究所	浅 利 靖	南区北里1-15-1
7	相模原機械金属工業団地協同組合	水 田 光 臣	緑区橋本台2-7-28
8	相模原市農業協同組合 本店	落 合 幸 男	中央区千代田1-2-17
9	(学)女子美術大学	福 下 雄 二	南区麻溝台1900
10	(一財)生物科学安全研究所	山 本 実	緑区橋本台3-7-11
11	峡の原工業団地協同組合	萩 原 隆 志	緑区橋本台3-4-20

賛助会員

令和7年10月現在

No.	会 社 名	代表者氏名	所 在 地
1	NPO法人 かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部	古 屋 伸 夫	南区東林間1-25-10-210
2	相模原市ゼロカーボン推進課	市 橋 剛 輝	中央区中央2-11-15
3	相模原市自治会連合会	竹 田 幹 夫	中央区富士見6-6-23
4	相模原市地域婦人団体連絡協議会	中牟田 好 江	中央区陽光台3-16-20
5	NPO法人 さがみはら地球温暖化対策協議会	岩 下 正 人	中央区富士見1-3-41

相模原の
環境をよくする会
会則・細則

相模原の環境をよくする会会則

(名 称)

第1条 本会は、相模原の環境をよくする会と称し、事務局を相模原市役所内に置く。

(目 的)

第2条 本会は、環境保全活動に取り組む企業、団体が連携し、気候変動、生物多様性の損失及び汚染という地球的危機の克服に向けた取組を推進し、もって持続可能な社会の形成に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 環境の保全に関する情報共有及び発信
- (2) 研修会、講演会、視察等の実施
- (3) 環境の保全に係る啓発活動
- (4) 関係行政機関との連携及び協力
- (5) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会 員)

第4条 本会は、相模原市内にある工場、事業場等で、本会の目的に賛同し、かつ、役員会の承認を得たものをもって組織する。

2 会員は、別表の定めるところにより、会費を負担するものとする。

(賛助会員)

第5条 市内にある環境保全団体並びに市民団体等で、本会の目的に賛同し、かつ、役員会の承認を得たものを賛助会員とすることができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 理 事 若干名
- (4) 監 事 2名

(役員を選出)

第7条 本会の会長、副会長、理事及び監事は、総会で会員の中から選出する。

2 役員の前任期満了前における欠員補充は、会員が役員会の同意を得て、会員の中から選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は、会務を統括し、本会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長不在のときは、これを代行する。

3 理事は、会務を執行する。

4 監事は、会計を監査する。

(役員任期)

第9条 役員任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 補充により就任した役員任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は、任期が満了したときにおいても、後任者が就任するまで引き続きその職を行うものとする。

(事務局職員)

第10条 本会の事務局に次の職員を置く。

(1) 事務局長 1名

(2) 次 長 1名

(3) 書 記 若干名

2 事務局職員は、会長が委嘱する。

3 事務局長は、会の庶務を統括する。

4 次長は、事務局長を補佐し、事務局長不在のときは、その職務を代行する。

5 書記は、会の庶務を処理する。

(名誉会長及び顧問)

第11条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

(会 議)

第12条 本会の会議は、総会及び役員会とする。

(総 会)

第13条 総会は、会員及び賛助会員をもって構成する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とし、会長がこれを招集する。

3 通常総会は毎年1回、臨時総会は会長が必要と認めるとき又は会員及び賛助会員の3分の1以上から請求があったとき、これを開くものとする。

4 総会の議長は、そのつど選出する。

5 総会は、次の事項を議決する。

(1) 役員を選出にすること。

(2) 事業計画及び事業報告にすること。

(3) 予算及び決算にすること。

(4) 会則の改廃にすること。

(5) その他会長が必要と認める事項

(役員会)

第14条 役員会は、会長、副会長、理事及び監事をもって構成し、会長が招集する。

2 役員会の議長は、会長をもってこれにあてる。

3 役員会は、この会則の別の条項に定めるもののほか、次の事項を議決する。

(1) 総会で議決した事項の執行にすること。

(2) 総会に提案すべき事項にすること。

(3) 予算の補正にすること。

(4) 総会で委任された事項にすること。

(5) その他役員会において必要と認める事項

(会議の議決)

第15条 総会及び役員会は、構成員の2分の1以上の出席(委任状を含む。)がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(経費)

第16条 本会の経費は、次の収入をもってこれにあてる。

- (1) 会費
- (2) 負担金
- (3) 補助金
- (4) その他の収入

(事業年度)

第17条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(委任)

第18条 この会則の施行について必要な事項は、会長が役員会の議決を経て別に定める。

附則

この会則は、昭和60年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成3年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成4年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成19年4月20日から施行する。

附則

この会則は、令和7年4月25日から施行する。

別 表

会費算定基準（第4条関係）

- 1 工場、事業場にあつては、次の表に定める資本金額及び従業員数により算出した合計点数に2,500円を乗じた額とする。

点数 区分	1	2	3	4	5	6	7	8
資本金額	5千万円 未満	5千万円 以上 1億円 未満	1億円 以上 3億円 未満	3億円 以上 5億円 未満	5億円 以上 10億円 未満	10億円 以上 50億円 未満	50億円 以上 100億円 未満	100億円 以上
従業員数 (人)	10 未満	10 以上 50 未満	50 以上 100 未満	100 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上 1,500 未満	1,500 以上 2,000 未満	2,000 以上

- 2 公共事業所（相模原市役所を除く。）その他これに類する事業場一律10,000円を会費とする。
- 3 相模原市役所は200,000円を会費とする。

相模原の環境をよくする会細則

(入 会)

第1条 本会に入会しようとするものは、所定の入会申込書により申し込むものとする。

(退 会)

第2条 会員が退会しようとするときは、理由を付して届け出るものとする。

(変 更)

第3条 入会申込書に記載した事項のうち会長が必要と認める事項に変更があったときは、会員は、速やかに所定の変更届により届け出るものとする。

(会 費)

第4条 会費は年額とし、毎年5月1日から6月30日までに納入しなければならない。ただし、年度途中においての加入会員は、加入時期に応じ、月割りにより算出し、入会と同時に納入するものとする。

2 前項ただし書の規定により算出した額に100円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てるものとする。

3 既納の会費は、これを返還しない。

(負担金)

第5条 規定会費の他に特定の事業を行う場合、会長は、役員会の同意を得て、会員に対し負担金を請求することができる。

(名誉会長及び顧問)

第6条 名誉会長及び顧問は、会長が、役員会の同意を得て、委嘱するものとする。

2 名誉会長及び顧問の任期は、委嘱された日から、その日の属する年度の3月31日までとする。ただし、再任は妨げない。

(会 計)

第7条 本会の会計のうち、予算執行上の処理については、次のとおりとする。

(1) 予算の執行は、事務局長が行う。ただし、事務局長が認めるものは事務局次長が行えるものとする。

(2) 補正は次のとおりとし、役員会の決定を得て行うものとする。

ア 項及び目の設定又は廃止

イ 予算総額の10パーセント以上の支出を伴う予算額の変更

ウ 項間の予算額の移動で、当初計上した予算額の20パーセント以上を他の項に移動する場合

(3) 流用は次のとおりとし、事務局長の裁量で行うものとする。

ア 項間の予算額の移動で、補正に該当しない場合

イ 目間の予算額の移動

(4) 充当は、予備費を他の項及び目に使用する場合であり、事務局長の裁量で行うものとする。

(5) 契約の性質又は目的が競争に適しない契約をするときは随意契約によることができる。

(6) 契約の締結を行う場合においては、原則として2人以上から見積書を徴しなければならぬ。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合においては、1人を見積書の徴取で足りるものとする。

- ア 契約の性質又は目的により契約の相手方を特定せざるを得ないとき。
- イ 災害の発生等により緊急を要するとき。
- ウ 予定価格が10万円以下のとき。
- エ 前3号に掲げるもののほか、事務局長が2人以上から見積書を徴する必要がないと認める
とき。

(報酬)

第8条 本会の役員及び事務局職員は、無報酬とする。

(文書管理)

第9条 本会の文書の保存期間は、別表のとおりとする。

- 2 保存期間が過ぎた文書は、速やかに廃棄するものとする。ただし、特に必要と認められる文書については、会長が役員会の同意を得て、保存期間を過ぎた後も保管することができる。
- 3 前項の規定により文書を廃棄するときは、役員会の決定を得なければならない。
- 4 個人情報が含まれる文書を廃棄するときは、廃棄後に情報が読み取れないように配慮しなければならない。

附 則

この細則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成19年4月20日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成29年11月7日から施行する。

附 則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和7年4月25日から施行する。

別表（第9条関係）

文書の区分	保存期間
会則、細則及び規定 入会申込書 退会届 変更届 会員名簿 総会議事録（議案書を含む。） 役員会議事録 委託契約書類 会報（創刊号から）	常用
収入伺 支出命令書 銀行預金通帳	10年
総総会及び役員会関係書類（他の区分に属するものを除く。） 事業関係書類（他の区分に属するものを除く。）	5年
その他軽易な文書	1年

備考 保存期間は、文書を作成し、又は取得した事業年度（契約期間のある契約書等一定期間効力を有する文書については、その期間の満了した事業年度）の次の事業年度の初日から計算するものとする。

澄んだ水 あふれる緑 青い空 みんなで築こう相模原

(スローガン)

令和 7 年 10 月

相模原の環境をよくする会

事務局(相模原市 環境経済局 環境部 ゼロカーボン推進課)

TEL 042(769)8240 FAX 042(769)4445

印刷 タイヨー印刷(株)



澄んだ水あふれる緑青い空
みんなで築こう相模原